

家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十四卷 第十二號



日本国国鉄特別扱承認雑誌第六八三号

日本幼稚園協會

12

人形絵本

幼児の強い興味をひく、人形劇の形式！
天然色写真による立体絵本
ヤン坊シリーズ

- やん坊にん坊とん坊と おともだち
- やん坊にん坊とん坊と なまげざる
- やん坊にん坊とん坊と あひるのこ
- * あかすきんちゃん
- * じゃつくとまめのき
- * びーたーとおおかみ
- * 三びきのこぶた
- * 三びきのくま
- * 金のがちょう
- * ぶーぼん先生のあふりかたんけん
- * ぶーぼん先生海のぼうけん

各100円

こども百科

一冊一冊の楽しい絵本が、まとまってこども百科になると幼稚園必備の絵本

- ①きしし
- ②でんしや
- ③じどうじや
- ④なかよしどうぶつ
- ⑤どうぶつづくし
- ⑥かずとあいうえお
- ⑦たべもの
- ⑧ひこうきとふね
- ⑨世界一つくし

*厚くて丈夫な貼合せ絵本

各90円

*トツパンの絵本はフレール館または代理店にてお取次ぎいたしております

トツパン 東京都中央区日本橋茅場町1の20・振替東京41647

新刊

幼児の劇あそび集

A5判 約二百頁
頒価 二二〇円

当幼稚園において、実際子どもたちが、よるこんであそんだもの二十数種をおさめたものでございます。

劇の長さ、用いられたことば、中に盛りこまれた内容、その扮装、参加人員などの諸点で、子供の自然の生活そのままでございます。

無理のない幼児向きの縄あそび集として、皆様にお奨めいたします。

お茶の水女子大学附属幼稚園内

幼児教育研究会編

▽新刊おしらせ△

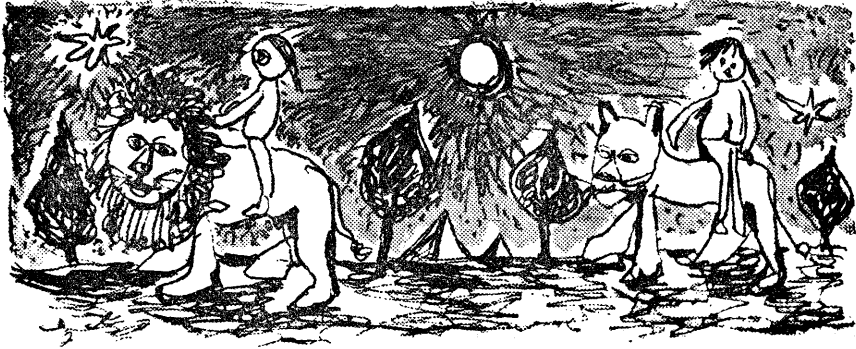
お茶の水女子大学附属幼稚園
幼児教育研究会 編

幼児の教育内容とその指導

A5上製
二三〇頁
定価二二〇円
T二四円

【内容】幼児の教育内容を扱うにあたって、健康・運動（一）、健康安全（二）、健康習慣（三）、運動（四）、休息（五）、社会（一）、独立生活（二）、友だち遊び（三）、集団生活（四）、問題解決（五）、社会生活（六）、自然（七）、言語（一）、会話（二）、お話（三）、紙芝居（四）、話し合い・劇遊び（五）、絵本・文字（六）、音楽リズム（一）、歌（二）、リズム（三）、楽器（四）、鑑賞（五）、絵画製作

株式会社
フレールベル館



目 次

表 紙 鈴木信太郎

| |
|--|
| 幼児用の机と椅子について……………山 下 俊 郎…(2) |
| クラスの社会心理……………水 原 泰 介…(5) |
| 第 2 回全国国公立幼稚園教育研究協議会に出席して ……………菊 池 ふ じ の…(10) |
| 第 2 回日本私立幼稚園教育研究全国大会に出席して ……………池 田 節 夫…(13) |
| 幼児の交友関係の考察……………村 井 ト ミ…(16) |
| 幼児の発表力について……………関 治 子…(22) |
| ☆国際学校の子供の絵☆…………… アメリカ大使館文化交流局提供…(27) |

研究協議

| |
|--|
| 社 会……………(28) |
| 自 然……………(32) |
| 言 語……………(37) |
| 倉橋惣三先生を偲びて ……………上沢謙二・桜井ウメ・松下哲子…(42) |
| 幼児に於ける遊戯の問題……………吉 岡 千 秋…(44) |
| 私の園の入園状況……………中 谷 久 子…(47) |
| 幼児の教育第五十四巻総目録……………(49) |

編集主幹
協力委員

及川ふみ
牛島義友
波多野完治
山 下 俊 郎
編集主任
斉藤文雄
津 守
多田鉄雄
真 真
(五十音順)



幼児用の机と椅子について

山下俊郎

くその工夫のためによけいな制約を受けることになってあとで困ることが多いようである。

机と椅子については、もう一つ高さの問題がある、机と椅子の高さは、直接にこれを使っている幼児の姿勢に関連する。いい姿勢をとらせるようにするということを考えるならば、何としても幼児の身体発達にあわせた机と椅子を用意することが必要である。ところが実際に方々の幼稚園や保育所にいってみると、机や椅子の高さにはずいぶんといろいろのものがあって、うまく幼児に合っていないのではないかと思われるものが少なくない。

二

幼稚園や保育所で、幼児用の備品として用いられている机と椅子を見ると、まずその形が種々雑多であることが眼につく。机では、長方形のものが一ばん多いことは多いが、その大きさにはいろいろの種類があり、形の上からいっても、そのほかに円形があり扇形があり、脚のつけ方を見てもまことに種々雑多なものがある。椅子について、一人掛けのものだけをとりにあげても、いろいろの形のものがある。全体的にそうならば、机にしても椅子にしても、その形はなるべく単純な形で、しかも多面的な用途に耐える融通性に富んでいて、堅牢な大きなものがないということが、一般的にはいえるであらう。あまりに特殊な工夫をこらしたようなものは、とか

この幼児用の机と椅子にいろいろの問題があることをかね

がね感じていたわたくしたちは、昨年の夏休みに、東京家政大学の児童研究班の数人の学生に保育施設の机と椅子についての調査をやってみるようすすめたので、学生達は直接に保育施設にいろいろな面から調査した。その中から、机と椅子の高さの結果だけをとりあげてここに紹介してみよう。

調査の対象になった施設は、東京都内で九園、地方では長野、静岡、広島、新潟、秋田の各県から十園である。この被調査園はいずれも学生の郷里であるとか、近くで便利な所というような条件で選んだものであるから、厳密なサンプリングによるものではない。したがって、いわば問題の所在を明らかにする程度の意味しかないであろう。机と椅子を用いている幼児の年齢は、四才と五才とに限定してある。

三

まず机の高さを四才五才児に対して幾段階用意してあるかを見ると、少ない所は一種類しかないし、多い所は六種類にわたっている。

机の高さを、その寸法別に段階をわけて分布状態を見ると第一図のような結果になっている。また椅子の高さを同じようにして示すと、第二図のような結果になっている。この二つの図で見ると机にしても椅子にしても標準からのずれがいく

じるしく、また、害にも色々の種類があることに気がつく。

四

標準となるべき机の高さについては、豊田順爾氏の学童用机の座高三角法の方式がある。この方式によると

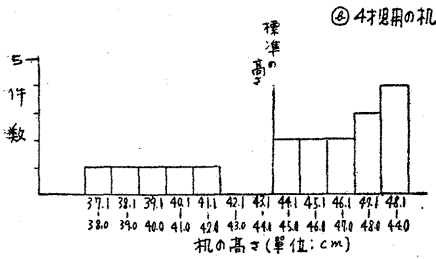
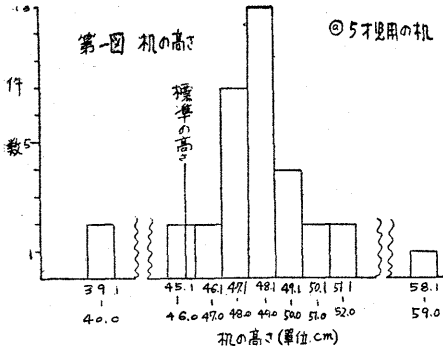
$$\text{机の高さ} = \frac{\text{身長}}{3} + \text{座高の高さ}$$

標準の高さ = 100 厘米

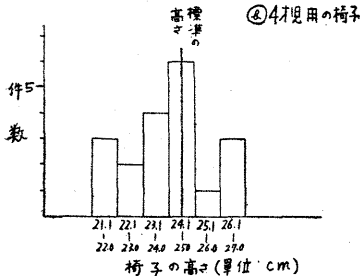
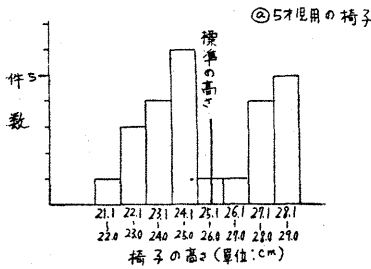
となっている。仮りに学童用の方式をそのまま幼児にあてはめて考察してみる。そこで、全国平均座高をこの式にあてはめて、計算すると、標準となる机の高さは五才児用四五・六三センチ、四才用四四・〇センチとなる。被調査園の身体検査記録によって座高の平均を出してみるとほぼ全国平均と等しくなっているので、次の数字は妥当だと思われるのである。下腿長は、全国的な数字がないので、身長、座高、体重がほぼ全国平均に近い幼児を各年令から十名ずつ選び、調査して平均値を求めた所、五才児二五・五センチ、四才児二四・五センチとなった。したがって、これが標準となる椅子の高さであると考えられる。この机と椅子の標準寸法の当てはまる位置を第一図および第二図のそれぞれの所に示しておいた。

五

次の数字は一つの参考になると思うのであるが、全国的に測定して標準を出すことがわたくし達に課せられた課題であると思う。そして標準的な机と椅子の高さを定めることが課題である。さらにまた、ひとしく五才児とか四才児というて



第二図 椅子の高さ



も個人差がいちじるしいのであるから、この個人差に応じて各年令別にどのくらいの段階を留意したらいいかということも考えることも重要な問題であろう。

(ここに資料として用いた調査を行ったのは、東京家政大学学生安達博子、金子久子、佐々木恵美子、新井友世、金原澄江の五名である。)

クラスの社会心理

クラスは一人の生徒だけではなくて何十人かの生徒から成り、従ってそれは集団場面である。人々が集団を形成し、集団生活が続けられていると、そこに集団場面特有のいろいろの現象が認められる。クラスが集団場面であることから生ずる主要な特性について述べてみようと思う。

教育を受けるには個人教授が理想とされた時代があった。むかしの貴族などの子弟は専ら家庭教師による個人教授によって教育を受けていた。現在は集団的教育の利点が次第に認められて来ている。教育者は単に国語や算数などの知識を生徒に与えるだけでは事足りず、社会生活の仕方、他の人々と協力することを学ばせなければならぬ。一般教育の主要な目的の一つが健全なる市民の育成にあるということから考えてもそれは当然

のことである。

クラス内の対人関係が子供の安定感に大きな影響を及ぼしている

子供は、未知の場面や敵対的な力にぶつかって、これを克服するだけの自己の力がない場合には安定感を失う。けれども、このような場合に若し誰かが自分を援けて呉れて、外的圧力を克服することが出来るならば安定感を維持出来るであろう。クラスで太郎の周囲の子供達が太郎をいじめたり、のけものにしたりするならば、太郎は敵対的な力にとり巻かれ安定感が脅かされることになる。周囲の子供達が太郎を援け、はげまして困難を克服させて呉れるならば太郎は不安にさらされなくて済

水原泰介

む。つまり、太郎の安定感とは周囲の子供達と太郎との対人関係の如何によって大きな影響を受けるのである。

安定感が脅かされている子供は他の子供への攻撃的行動が多くなったり、或は他の子供の中に入ることにしりこみして、ひとりぼっちになり勝ちである。また、落着きのない、いらいらした行動が多くなったり、ちょっとしたことでも怒ったり、泣いたりする。

また、他の子供達から自分が認められ、自分を必要とされる事が安定感を高め、生活に張合いを感じ、自信を強める。逆に、他人から認められず、必要とされないことが安定感を脅かす。自分が、グループから必要とされるようになるためには、グループが必要としている役割を果たさなければならぬ。電車ごっこをする時に、お客さんになった子供に対しては、グループは彼がお客さんの役割を演ずることを必要とし、それを期待している。このようなグループが必要としている役割をちゃんと果たす子供はグループに受入れられ、必要視されるであろう。このようなグループからの要請にこたえないような子供はのけものにされる。

このようなグループからの要請にこたえない子供の中には、(4) 知能、運動能力などが低い場合、(5) グループが必要としていることがどんなことであるかを理解出来ない場合、(6) 知

能、運動能力も十分であり、集団が要請しているものが何であるかの理解も出来るが、而かもその集団が必要としている役割を果たすことを怠る場合——などがある。子供を集団生活に適応させるためには、適切な指導によって、集団が必要としている役割に対して子供に眼を開かせ、積極的にそれにこたえる態度を養うことが望ましい。これが、協力することが出来るための基礎となるのである。能力が劣っているために集団が必要とする主要な役割を果たすことの出来ない子供には、その子供の能力にふさわしい役割（集団が必要としている役割でさえあれば主要な役割でなく副次的な役割であってもよい）を見つけて出してこれを与えようとよい。この役割を果たすことによって彼は集団から存在を認められ受け入れられる。このような経験を重ねているうちに彼は集団が必要としている役割を果たして集団から受け入れられることの「味」をおぼえる。そして集団が必要としている役割で自分の能力にふさわしいものを探してこれを果たすように努めるといふ態度が生ずるであろう。

グループは子供の態度や行動の方向づけを行う

クラス生活が続けられていると、子供達は相互に影響を及ぼし合い、クラスの中に態度や行動の一定の全体的傾向が作られる。例えば或るクラスでは、子供達の間にクラスの器具を大切に作る全体的傾向が作られた。このクラスでは皆がクラスの器

具を大切にする。このクラスでは誰にとってもそうするのが、あたりまえのことになるのである。グループにはこのように子供達全体の態度や行動を一定の型に方向づける作用がある。人はどのような行動をとるべきかの方向づけを必要とする。例えば新しく学校に入った当初にはどんな行動をとってよいのかはつきりしないことが多いために子供達は不安である。それが学校生活が続けられているうちに、色々と様子がわかり、このような場合にはこうすればよい、あのような時には、ああすればよいと云う風に行動の方向づけが明瞭になるにつれて安心して行動をすることが出来るようになる。我々が安んじてそれに従っていられるような行動の型というのは、我々の周囲の大多数の人々が同様にとっている行動の型である場合が多い。

つまり、周囲の大多数の人々と類似の行動をとってあれば安心なのである。そこで、クラス内に於てはお互に類似した行動をとることにになり、従って、全員の行動が類似したものになって来る。このようにしてクラス内に態度や行動の一般的傾向が生ずるということは、クラス内に、云はば、標準的な態度や行動が出来て来るということである。我々は集団の中ではその標準的な態度や行動をとってあれば安心していられるのである。従って子供達はこの標準的行動ののっとって行動する。このことは別の観点から見れば、子供達が皆で自分達の実践によって、その標準的行動を自発的に支持し、これの存続を固守している

ことになる。皆で力を協せてそれを守り続けるとも云えるのである。ひとたび標準的行動が出来上るとそれは永く存続する傾向がある。

子供達は標準的行動を自分達の実践によって自発的に支持し、守ってゆくのであるから教育上望ましい種類の態度や行動がクラスの標準的な態度や行動になるか或は望ましくない種類のものがクラスの標準になるかは、教育者にとって重大問題である。子供達はその行動の型を上から押しつけられたものとしてではなしに、自発的にとり入れ、守り続けるのである。従ってそれは最も身につき易いのである。そして子供達皆で一緒になって守り続けているのであるから、これを変えさせようとする外からの働きかけに対して強い抵抗力を持っている。

教育者は個々の子供の態度や行動の特殊性を理解しなければならぬと同時に、どのような態度や行動がそのクラスの標準的なものとなっているかに心を配り、望ましい態度や行動をクラスの標準にするように努めなければならぬ。一人々々の子供に働きかけ一人々々をよくしてゆく努力と共に、クラス全体に働きかけてクラスの全体的特徴、例えばクラスの標準的行動や雰囲気改善するための努力が必要である。

クラスの雰囲気と実験的発達

社会生活の技術、運動能力、知的作業の技術などを発達させ

るためには、何等の不安も感ずることなしに色々と試みてみる
ことが出来ることが望ましい。例えば、幼児が話し方をおぼえ
る場合には、色々と次から次へと試みてみる。大人からみると
間違いだらけの奇妙な「言葉」が続出する。併しこの種々様々
の試みが幼児の話し方を発達させるのである。若し誤った言葉
使いをしつららいちいち叱られるような家庭では話し方の発達が
かえって遅れる。正しい話し方を教えることは望ましいことと
ある。けれども、そのことが幼児の自由な試みを抑圧するよう
になる場合には逆効果が見れる。

幼児が他の人々と接触するようになると、いろんなことを試
みしてみる。他の子供にいたづらしたり、攻撃したり、他の人の
ものをいじったり、或は自分のものを与えたりする。そしてこ
れらの仕方にも色々と変化を試みてみる。この場合にも、この
ような色々の試みが幼児の社会生活の技術の発達に非常に役立
っているのである。望ましくない試みはことごとく禁止され、
望ましい特定の振舞い方を強制される家庭の子供は社会性の発
達が遅れる傾向が見られる。民主的で寛容な雰囲気の家では
子供は不安なしに色々の行動を試みてみることが出来る。独裁
的で厳格な雰囲気の家では子供は不安なしに自由に色々の行
動を試みることが難かしい。我々が行った研究(註1)による
と民主的で寛容な雰囲気の家の子供(男子)は「親切」「大
人に依存しない」「他人と協力的」「礼儀正しい」などの点で

優れている者が多い。独裁的で厳格な雰囲気の家の子供(男
子)は「大人に依存する」「グループ遊びを好まない」「言葉
や動作がのろい」などの特徴が見られる者が多かった。

子供が色々な試みを行なってみるということは、云はば現実
の世界について実験を行ってみるようなものである。子供はこ
れによって現実の世界について数多くの体験を重ね、そこに働
いている「法則」を知るのである。どんな場合にどうすればど
うなるかを学びとるのである。自分で色々とやってみて学ぶ方
が、単に大人から教えられ指図されるのよりも、幅の広い、身
についたものが得られる。不安なしに色々と試みることが出来
る場合にはそれが積極性、自発性を高めることになり、また、
場面に応じて融通のきく適応の仕方をつけることが出来
る。このように不安なしに自由に色々の行動を試みてみること
による行動の発達を「実験的発達」と呼ぶ。実験的発達を助
成するためには、クラス内に何でも安心して試みてみることに
出来る雰囲気を作り出すことが必要である。クラスの雰囲気が
どんなものになるかは先生の態度や行動によって最も大きな影
響を受ける。先生が子供達の意思を十分に生かし伸ばしてやろ
うとしないで、先生の意図して通りに子供達を動かしてゆこ
うとするやり方の場合には、子供達が安心して自発的に試みる
ことが出来るような雰囲気は出来難い。あれは良い、これは悪
いと云う風に何でも直ぐに先生のもっている善悪の型にはめて

しまうという態度でなしに、子供が欲し、意図していることを生かすことの出来る道を開いてやり、或は子供が自発的に選択し決定するようにしむけてやり、その際に子供が自分で正しい道を選ぶようにヒントを与えてやるというやり方が望ましい。

悪い子供とか良い子供とか云わないで、そのまま子供を受けいれてやり、子供が望ましい行動をとるように場面をしつらえてやり、必要なヒントを与えてやって、子供が自分で選んで実行した自分の経験によって、良い行いをする事の「味」をおぼえさせるのである。このような先生の下では子供達は何等の不安なしに自分の欲することを試みてみる事が出来る。先生から「悪い子供だ」と思われたり、先生の愛情を失ったりするという心配なしに自由に振舞うことが出来るのである。私達の研究室で田中信子さん（現在は東洋英和女学院小学部在職）が行った研究（註2）によると、子供の自発的行動を促進し、子供の意志を出来るだけ生かしてやるというやり方の先生のクラスの子供達は、上から一方的に「教え導く」「指図する」というやり方の先生のクラスの子供達よりも著しく社会性が発達している。これは上に述べたような「実験的発達」によるものと考えられる。

子供が自由に振舞えるからといって、ここに述べたような先生の子供に対する扱い方を放任的なやり方と混同してはならない。放任されている子供は、自分が先生から受けいれられてい

るのかどうか不安だし、また自分のとる行動について適切なヒントが得られないので、その行動が障碍にぶつかったり、失敗したりすることが多く、欲求不満に陥り易い。

（註1）

水原泰介・井田薫子「家庭での育て方と幼児のパーソナリティ」児童心理と精神衛生

昭25、第3巻第5号二三—三六

（註2）

水原泰介「私は園児にどんな影響を与えているでしょう」幼児の教育

昭29、第53巻第11号二四—二六

第二回全国国公立幼稚園教育研究協議会に出席して

菊池ふじの

東京都国公立幼稚園長会がお引き受けした第二回の、全国国公立幼稚園教育研究協議会は、本年八月六、七、八の三日間、お茶の水女子大学を会場として開催せられました。

記録的な酷暑の最中であつたにもかかわらず、

北は北海道より、南は鹿児島にいたるまで、全国の国公立幼稚園の園長、主任、教諭などの参会者六八二名。どの顔にも溢れていた熱誠とその真けんな態度とは、この

会の性格を物語るに充分でありました。

さて、会は、左の日程によつて進められました。

第一日(八月六日)

開会式(九、〇〇—九、三〇)

閉式のことば

挨拶 全国国公立幼稚園長会長 小林 操

祝辞 文部大臣 松村 謙三

代理初等教育課長 上野芳太郎

東京都教育長 本島 寛

代理 教育委員 柴田 秀子

閉式のことば

研究発表(九、三〇—一〇、〇〇)

講演(一〇、〇〇—一〇、二〇)

1 新時代に生きる女性の道

前文部大臣 天野 貞祐

昼食(一〇、二〇—一〇、四〇)

分科研究協議会(一〇、四〇—一〇、六〇)

第二日(八月七日)

研究発表(八、三〇—一〇、〇〇)

分科研究協議会(一〇、〇〇—一〇、二〇)

昼食(一〇、二〇—一〇、四〇)

講演(一〇、二〇—一〇、四〇)

2 このごろ思うこと

時間担当 N・H・文婦人の 秋山ちえ子

閉会式(一〇、四〇—一〇、六〇)

都内観光(第一班)(四、〇〇—四、二〇)

第三日(八月八日)

皇居拝観(八、〇〇—一〇、〇〇)

昼食(一〇、二〇—一〇、四〇)

都内観光(第二班)(一〇、〇〇—一〇、二〇)

〔研究発表〕第一日午前・第二日午前

1、観察の系統的指導について

東京都新宿区立 仲之町幼稚園教諭 高田 典

2、幼稚園の立場から見た小学校との連携についての諸問題

新潟県高田市立 高田幼稚園教諭 竹下 キク

3、幼児の音楽的即興性をそだてて

岐阜県岐阜市立 加納幼稚園教諭 渡辺 房子

4、幼稚園における弁当の質と量よりみた健康状態

大阪府大阪市立 大宝幼稚園教諭 谷沢 睦子

5、幼稚園教育と小学校教育との連関を緊密にする方法とその結果について

岡山大学教育学部 附属幼稚園教諭 從野 静江

6、創造性をつちかう幼児教育における誘引力の問題

徳島市立 内町幼稚園教諭 三木多美子

7、幼稚園の放送教育（幼稚園でラジオをどのように活用したらよいか）

奈良市立 富雄南幼稚園教諭 勝田 節
鹿児島県幼稚園史

鹿児島大学教育学部
附属幼稚園教諭 遠山 多美

〔分科会による研究協議題および指導者〕
第一日午後・第二日午前

1、科学的、創造的精神をつちかうにはどのようにしたらよいか

指導者 東京学芸大学 授角尾 稔
助教 東京都港区立 樋口 澄雄

2、情操の豊かな健康な幼児を育てるにはどのようにしたらよいか

指導者 お茶の水女子大学 助教授 平井 信義
司会者 東京都港区立 桜井 勘重

3、性格教育はどのようにしたらよいか

指導者 信州大学 教授 竹内 硬
司会者 東京大学 講師

4、問題児の指導を効果的にするにはどのようにしたらよいか

指導者 東京大学 教授 三木 安正
司会者 東京都台東区立 柳沢 武夫
千束幼稚園 園長

研究発表

全国から八名の発表者がありました。前

掲の題名からもうかがえるように、発表内容は、何れもみな、幼稚園にとって大切な、そして、幼児教育者の誰もが知りたい、調べたいと思っている事柄ばかりでした。一人十五分という限られた短い時間内で、あの膨大な研究内容は、充分に発表し尽されなかつたでありましょうし、揭示された数々の資料やデーターも、参会者全部に、明瞭に見とられなかつた恨みはあつたでありましょうが、この点は、しかし、立派に編集されたその「研究集録」（編集長公立幼稚園長 会印刷フレール館）をひもとけば、一目瞭然であります。この集録を手にとつて、今更のように、これらの研究発表の内容の、如何に真けんな、研究的な、努力の結晶であるかがうかがわれるのでございます。

実に研究発表は、何れも、流石に日々實際保育に携わつておられる實際家の先生だけに、しっかりと、現実の幼児に根拠をもつているものばかりでした。自分たちの直面している幼児たちを、少しでもひき上げよう、豊かにしよう、健康にしよう、仕あ

わせにしよう、という熱意にもえているものばかりでありました。

その実際指導法の工夫は、この熱意の上で立つての工夫ですから、至れり尽せりの努力をせられたもので、敬服の至りでした。（研究発表 1、3、6、7など）

また、その調査についてのデーターや資料などは驚くべき緻密さを持ち、その広範囲に互つての調査研究であることにも誠に感動させられました。（研究発表 2、4、5、8など）子供を保育しながら、明日の保育の準備をしながら、今日の保育の後始末や整頓をしながら、そのかたわらに、よくぞまあこんなにもできたものだ、これまた敬服の至りでした。

研究の方法もまた、組織的系統的で、きまぐれや、粗雑さは少しもありません。発表の態度もまじめで敬虔で、誠に立派でございました。

一言にしていえば、熱烈な幼児愛の上でたつての、まじめな組織的な研究、熱心な創意工夫、たゆむことなき努力の満ち満ち

てる研究発表であつたといえると思いません。

未だしっかりした基盤の上に立っているとは言えない我が幼稚園教育の現状ではありますが、このような後進をもっていることは何としても強味で、我が幼児教育の将来に多大の期待が寄せられることだと、二日間にわたる研究発表を、感慨に耽りながら、聞いたり見たりしていたことでした。

分科研究協議会

四班に分れての研究協議会でしたが、どの班も、略々同数の二〇〇人前後の熱心な会員の集りでした。

指導の講師また何れもその途に於ての權威者で、しかも前々から、この協議会をどのようににもとうかと熱心に工夫をしておいて下さいました。ですから、協議会冒頭の説明に、或はまた、会員との一問一答に於て発せられる一言一言は、会員の要所にピンと響き、みな直ちに血となり肉となる内容ばかりでありました。実に収穫の多い協

議会で、「来た甲斐があつた」といったような表情が、誰でも顔に溢れておりました。

講演

1 (新時代に生きる女性の道 天野貞祐)

やっぱり哲学者だなあ、と思わせるような意見を吐かれたり、計画をされたりして、異色の存在として今なお、私たちの記憶にのこっている、前文部大臣としての天野貞祐先生、カント学者として数々の哲学書を著わされた天野貞祐先生の、御名を知らないものはないでしょうが、いまだお顔を拝見したことのない会員もかなりにあつたことでしょう。…私もその一人ですが：…
こうした必要に応えたのがその一つ。次には、御講演の隨所にカント哲学の息吹を感じられたのがその二。その三は、御講演の内容であります。いかにも哲学者らしいおじいさまぶりの御講演でした。御講演の終り、若い男女の交際にまでお話が及びましたが、先生の信念に満ちたお説によつ

て、私たち年輩者の常日頃抱いている意見はしっかりと裏付けをしていたのだいたように思いますが、果して若い世代の人々の感想や如何にです。

2 (このごろ思うこと)

N.H.K.婦人の時間担当 秋山ちえ子)

この講演は本研究会最終の幕です。「私を見たこと聞いたこと」の放送で、声のよいこと、はぎれのいい話しぶり、頭と感覚のいい急所の突っこみを見せて、いつも私たちの胸をすうっとさせてくださっている、影の声の秋山さんを、今日始めて見る会員も沢山あつたことでしょう。実際いま、壇上に、生の姿をみて、その声よし、みめよし、すがたよしに会員は先ず惹きつけられてしまい、うだるような暑さにもかかわらず、会場は水を打ったような静けさになりました。
秋山さんの口からもれる話しぶり、流石にと、誰でもが感歎の面持をして聞き入つたことでした。

おはなしの内容は、場末の細民街の保育所のことを放送したときの社会の反響のこと、幼稚園の先生の待遇のこと、など、やっぱり秋山さんは私たちと同じ畑の幼児教育者であると感を強うしたことでした。それから、ビキニの灰の久保山さんの死のことに及び、久保山夫人の心境を説いて、婦人としての平和への祈りを訴えられるあたり、女流評論家としての面影が躍如としていました。

はぎれのいい、しかしやわらか味のあるお声は、会場の隅々にまで、極めてらくに通り、講演の内容とともに満堂の人の心を打ちました。

予定の一時間丁度でお話は終わりました。何もかも流石に馴れたものでした。会員の拍手はいつまでも長く止みませんでした。本研究会最後の幕を飾るのに、ふさわしい光景でした。

観光

皇居拝観と、都内観光の二ツの計画は、

参会者のみなさんから、よろこばれました。みんなそれぞれ東京でなければ得られないお土産を、手にも心にも抱かれながら、それぞれ帰途に就かれたことでした。来年のこの会は、どの地で開かれることでしょうか。期待と感激を胸に描きながらこの研究会の見聞を綴りました。

(お茶の水大附属幼稚園主任)

第二回日本私立幼稚園教育 研究全国大会に出席して

池田節夫

日本私立幼稚園連合会主催の第二回日本私立幼稚園教育研究全国大会が、昨年の大分大会からバトンを引継いだ石川県におい

て、七月二十六日は森の都金沢市北陸学院高等学部講堂で、翌二十七日は加賀絹の発祥地小松市芦城小学校新体育館で、二日間互って開催された。

昨年は、「私立学校教職員共済組合」が設立されて、私立幼稚園に勤務する教職員にも公立の教職員と同様の共済制度ができたことを記念する意味をも持って、連合会としては初めて開催したもので、この制度の成立を喜ぶと共に、一層幼児教育の研究と精進とを誓い、私立という一色の純粹さから、実に同志的な、そして感激的な大会を終了したのであるが、今年の大会は、その日から待ち望まれていたものである。

開催地である石川県私立幼稚園協会では、「如何にしてよりよき大会を」との熱意で万般の準備に着手し、全国から参集した千六百名の会員を温かく金沢駅頭に迎えて会場まで導いてくれた。

第一日の会場校北陸学院は日本最古の私立の基督教幼稚園をもつところで、大会場としては最適の場所と言えよう。開会を待

つ間の一刻、再会を喜ぶ挨拶が諸々で交さ
れていた。会は定刻に始められ、酷暑満員
の会場に波うつ白扇が印象的であった。

開会式、表彰式は次第によつて進められ
ていったが、私立幼稚園に勤続二十五年以
上の園長十五名、二十年以上の教職員二十
二名(いづれも昨年表彰を受けた者を除く)
の表彰と、昨年の大会開催地大分県私立幼
稚園協会に対する感謝状の贈呈は万場の祝
福と感謝の拍手をあびた。

開会式のあと大会委員長、副委員長、各
分科会座長の報告があり、続いて元文相、
中央教育審議会々長、独協中学高等学校長
天野貞祐氏から「新時代に生きる道」と題
して、人間と環境、自由、道徳、教養につ
いて話が進められ、最後にヘーゲルの「一
本の果物の木の果物が、どんな形、香、味
をもつものになるか、それらはその木の芽
の中に含まれている」との言葉を引用して
幼稚園教職員の職員を尊重すると共に自覚
をうながす有益な講演があった。

午後、第一分科(教育内容に関するもの)

の)、第二分科(経営管理に関するもの)に
分れて研究協議に移った。

第一分科は、武南高志氏(東京、小金井
教会幼稚園)、増木かずみ氏(佐賀、月影幼
稚園)が正副座長となり、文部省上野初中
局初等教育課長が出席して、全国から提出
された次の八題について研究協議した。

- 一、幼稚園の「教育要領」はどのようであ
るべきか(東京都)
- 二、幼稚園教育の効果と保育年限について
(栃木県)
- 三、幼児の情操教育の適切なる方策につい
て(東京都)
- 四、幼稚園における平和教育について(佐
賀県、石川県)
- 五、幼児教育においてラジオを有効に利用
する方法について(山口県)
- 六、問題児(例、発表力の少ない幼児)の
指導はどのようにしたらよいか(京都府)
- 七、幼稚園教育における家庭との協力につ
いて(福島県)
- 八、幼稚園教育と小学校教育との連繫を緊

密にすることについて(埼玉県)

第二分科は、長沼依山氏(埼玉、浦和幼
稚園)、山名義順氏(京都、高倉幼稚園)が
正副座長となり、文部省管理局振興課室田
事務官が出席して次の五題を協議した。

- 一、私立幼稚園の今後の経営管理を如何に
すべきか(京都府、東京都)
 - 二、幼稚園の学校法人化を促進強化する具
体策について(埼玉県、東京都)
 - 三、幼稚園設立と距離の問題について(香
川県)
 - 四、無認可の幼児施設について(石川県)
 - 五、幼稚園教員の資質向上をはかる方策に
ついて(栃木県)
- 各分科共に昨年同様、各題目について予
め参考資料を作製して参会者に配布したこ
とが研究協議の進行上、その中心点、問題
点を明らかにしたので有効であった。
- 第二日の会場は小松市に移され、前日の
疲れを休めた粟津、片山津の両温泉の各宿
舎からバスを連ねて到着、会場の新体育館
はこの大会で初めて使うとのことである

が、実に立派なもの、定刻再会、分科会の報告が各分科の座長によって行われたのち大会宣言文が発表され二日間に亘った充実した大会の全日程を終り閉会式に入った。

閉会式で特に記したいことは小松市教育委員会柴原教育長の祝辞である。「小松市には公立幼稚園は一つもなく、幼児教育のすべてを私立幼稚園にお願いしているので、市としては全幅の感謝を捧げると共に、それに報いるためには出来る限りの援助をしたいと思っている。幼児教育がその本来の目標を達成するためには、私立の幼稚園こそ最もふさわしいものであるとの信念を持っている。将来においても小松市に公立の幼稚園を設置する考えは持っていない。若しそれだけのものがあれば私立幼稚園の育成振興のために使う」と語られたことである。このことは、今回の大会のために示された小松市当局が全市を挙げての歓迎に如実に表われて、参会者一同に深い感銘を与えた。

この大会で連合会に研究部面を担当する

役員又は機構を設けてもらいたい、との発言があつたことは見逃せない。

連合会も発足以来七年になる。創設のため活動された役員苦心、創設以来今日の組織となるまでの役員努力は並大ていものではない。幸にして全国会員の理解と協力によって戦後の私学の行政面については強力な組織体となることができ、全国各都道府県団体もそれぞれの事業を活潑に遂行しているのである。

しかし、戦後の混乱時代を過ぎ、ようやく安定した情勢となつた今日、幼稚園教育にかけられている社会の期待に対して、わが国幼稚園教育の大半を支持している私立幼稚園としては、行政面と共にその教育についても互に研究検討を行つて内容の充実に向上に努めなければならない。この願いが昨年からの大会の開催となつたのであるが、各園、各団体と、それが個々に分散することなく、互に連絡をとり、全国の私立幼稚園がその量におけると同様、その質においてもわが国幼稚園教育のためにすぐれ

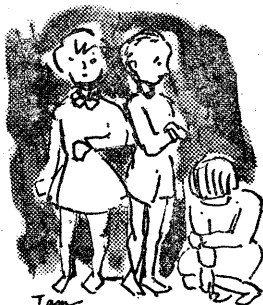
たものをもつように力を合せて伸びて行かなければならない。このことが第二回において早くも表明されたのである。この団結、協力連携の心が連合会の力である。

明年の大会は愛媛県と決定発表された。昨年、連合会としては幾分の困難が考えられながらもまた芽は今後力強く成長することであろう。

この大会にさきだつて、七月二十四日に全国理事会、二十五日には全国から集つた各都道府県私立幼稚園団体代表役員一七〇余名によつて昭和三十年度（第八回）総会が小松市粟津温泉法師旅館の大広間で開かれた。激暑を忘れて事業報告、議案審議が実に熱心に、しかも譟々のうちに文部省より上野初等教育課長、室田事務官の出席を得て行われたが、役員改選において、連合会を今日の強力な組織にまでまとめ、私立幼稚園の向上のみを念願として活躍してこられた青柳理事長が勇退され、明德幼稚園長笠原秀定氏が新理事長に選出された。

（日本私立幼稚園連合会事務局長）

幼児の交友関係の考察



《研究発表》

村井トミ

幼児の交友関係というと随分巾の広い問題であるが、ここでは次の五つのことについて考えてみたい。

(1) 入園時まだ遊べない子供達が、この一年の間にどんなグループをつくっていったか。

(2) 日頃子供達の話題にのぼる友達是谁だろうか。又、その話の内容はどんなことか。

(3) 子供達は組の中でどういう友達が好きだろうか。又は好きでないか。

(4) 家庭での交友はどうだろうか。

(5) 父母の社交性はどうだろうか。子供の社交性と関連があるかどうか。

○問題として取りあげた理由

昨年の四月、私は四才児の担任となった。新入の子供が二〇名、三才よりあがった子供が十八名（三才の時は他の先生が担任であった）合せて三十八名である。更に、組の編成が生年月日により分けてあるので、九月より三月迄に生れた年少の組であった。幼い者のあつまりのためか、一人っ子と末っ子が多かった。為か或は偶然か、とにかく友達と遊べない子供が目立って多かった。

（三十八人中、一人っ子十二人32%、末っ子

十五人39%を占めている）

それで友達とあそばせることに苦勞をしたので、ここにとりあげて皆様から、御経験や御指導を頂きたいと思うのである。

○この一年に交友を深めるために取った方法
・ 先ず何よりも子供達に対して注意深い観察が必要と思ひ、気をつけるようにした。

・ 子供達の自然の結びつきを理想としたので私の方から皆をさそって遊ぶようにした。そして色々の遊びや仕事の中で何か友達になるきっかけが出来ることを願った。

腰かける席は当分どこでも好きな所に腰かけることにした。すると毎日大体同じ友達と並んでいる者（友達が出来かかっている）とその時、その場に友達とは無関係に腰かける子供がいる。

幼稚園生活が一日一日と過ぎていく中に、次第に出来る仲よしが一組でも多いとほっとして喜び乍ら、子供の帰った後、まだ遊べない残りの子供達を頭の中で整理してみる。

・ 何か仲よしになるきっかけはないかと、家庭票を調べたり、通園してくる方向や兄弟関係、保護者同志の関係、おけいこ等について調べてみる。

そして何か関係があれば、何となく同じ遊びにさせたりする。こちらで何かのきっかけをつくらうとしても、性格にもよるし、無駄に終わってしまうことも随分多いが根気よく試みる。

・更に今度は席をきめてみる。

大分子供達の性格もわかってくるので、出来かけているグループは、それをまとめる意味から席をならべてみる。個々別々の子供達は仲よしになって丁度よさそうだと思う相手と席を一緒にしてみる。

この様に環境から自然にまとまるようにしむける。

・ぼつんと立っている子供には誰と遊びたいか、きいてみる。案外誰かと遊びたいと思っ

ていても仲間に入れない子供もいる。

・勿論交友の理想は或る限られた友達とばかりでなく、いつでもどのグループにも這入って遊べることだと思ふ。しかし、急にはなかなか出来ないので入園後の一年は大きく観て、一人ぼつちでなく誰かと遊べることを念願した。

尚、三才から来た子供と四才で這入った子供が一体となって遊べるように努力したそのた

め子供達のよろこぶごっこ遊び(例えば幼稚園ごっこ)など一緒に大勢であそぶ様にした。

この様に心を悩ましても成功したりしなかつたりで、がっかりすることもあるが自然にまかせて放っておいてよいものではないと思う。

○この様にして一年の間にどんなグループが出来ていったか

《一学期》

一学期に出来たグループは殆ど二人のグループで、一組だけ四人のグループが出来た。

二人のグループでも七組位で約十四人、あと出来かかっている中に夏休みになった。一見、よく遊んでいるように見えていて、よく見ると個人々々であるものが十八名で約組の半分。さそつても応じない子供が六人いた。

《二学期》

二学期になつても大体は二人のグループが多く、末頃になつて三人、四人というのが、ぼつぼつ見えはじめた。

グループは十二組位あり、約二十八人、あとはさそえば参加するが、さそわなければ、一人の時の方が多いものが六人、いつも一人で遊

んでいるものが三人である。

《三学期》

三学期になると二つのグループが一緒になつたり、又仲間に入らつたりして三人、四人、五人のグループが大分出来てきた。

二月の末頃になると、先学期には一人ぼつちだった三人の中、二人は仲間に入ることが出来たし、他の一人も大分仲間入りが出来るようになった。どうしてこの三人が最後まで残ったのか考えてみると、一人は、めつたに口をきかない子供であり、一人は内気で家庭

でも近くの友達が見えると泣き出してしまふということも母親からきいている。

一人は女の三人姉妹の末っ子で大体無口でおとなしい子供であった。

《五才になつて》

一年たつて五才になつた今、この四月、五月の二ヶ月で子供も年長組という自覚のためか心身共に急にのびてきたように思われる。五人までのグループだったのが、遊びによって二つ、三つのグループが一緒になつて、男の子は十人から十二人のグループ、女の子は六人から八人位でよく遊べるようになった。一年前は二人のグループがやつとだったのが

今は二人だけのグループが二組位になって、ほっとした気持でいる。

○グループが出来たきつかけはどんなものがあったか

一人一人について考えてみると、つまらないほんの一寸したことがきつかけとなっていることが多い。

私の組の場合に挙げられることは、

交通機関が同じである(一緒に帰る。よく途中で逢う)
幼稚園以外のどこかで逢ったから(愛育会で逢ったと
か銀座であった等)
名前が同じだから

遊びがきつかけで(汽車のお弁当やさんから
おけいこが一緒だから
席が並んでいるから
何となくすきだから

友達がさそってあげたから等の様である

○グループの種類はどんなのであるか

《性別》

幼稚園位の年令では男女一体となっているの
かと思つたが、出来たグループは、やはり男
の子は男の子、女の子は女の子と遊ぶことが
多い。勿論、男の子もままごとのお父さんに
なったりもしているが、全体からみると生活
の一部分でしかない。三才の時の様子をみて
も、やはり同性と遊んでいる時の方が多い。

しかし談話でもリズムでも、仕事でも食事でも、一緒にする機会は沢山あるから、自由あそびのグループは同性にかたよつても無理に交えることもないものと考えられる。

《兄弟関係》

兄弟は四人兄弟というのが三人、三人兄弟は五人、二人は十八人、一人子は十二人であり長男や長女は七人、末っ子十五人である。

最初に一寸ふれた様に一人と末っ子が組の71%を占めている。

グループをみると、一人っ子と一人っ子、末っ子と末っ子、一人っ子と末っ子、などが一つの仲間になっていることが多い。長男、長女が七人いるが、この子供達の中四人は同じグループである。

しかし一人っ子や末っ子が多いので偶然こんな形になったのかもしれないし、私の組だけでは何とも言えない。

《智能指数》

昨年の調査(田中ビネー)では、最高一五三最低一一四であるが、グループ毎にしらべてみると、特に高い者同志、又は低い者同志とどうかたよつた結果は出てこなかったので安心した。

《三才からいる子供と新しくはいった子供》
はじめ互になれない中は別々であったが、二学期頃から大分交つて遊ぶ様になった。

現在はグループも大きく遊ぶ様になってきたので大分心配はいらなくなってきたのでよろこんでいる。(これは子供達だけでは出来ないことで、母親達もかたよらずに交際する様に日頃からよく話をした。しかしまだ親の方が子供よりもかたよっている様である)

男女を比べると、男の子の方が、さっぱりしているのが殆どといつてよい位よくまざつてゐる。女の子は半分以上はよく交つて遊ぶが一部にかたよつたグループも見られる。

○グループのメンバーは変わるかどうか

この一年の間最初から変化のないもの、と、一定の期間仲よくして後変化するもの、の二つが考えられるが、大体に変化のない者の方が多い。

一学期仲よくしていたものが夏休みを過ぎて二学期になると少しも遊ばず、他の友達と仲よくする例も三つ程あったが、他は大体同じといつてもよく、成長するにつれて小さいグループが一緒になって大きなグループとなつて遊ぶものが多い。

○遊びや仕事の種類によってグループのメンバーが異なるかどうか

遊びの場合はグループのまま動いて行く場合が多い様に思われるが、仕事の場合は一概には言えないと思う。

こちらとしては仕事への導入の場合にグループを利用することが多いのだが（その中の一人をさそうとそのグループが皆くることがよくある）こういう時、遊びも仕事も同じメンバーでは発展性が少ないのではないかと一応心配になる。しかし一つのメンバーが同時に仕事を始めて同時に終るのではなく、終る時は個人の興味によって個々別々であるから更に新しいメンバーが少しづつ加って交替するのでその心配はいらないわけである（仕事のグループ指導）

又、リズム遊び等をも友達に関係なく自分のなりたい役になっているということをもいとも感ずるのである。

○調査紙

そこで一年たった今、A B C Dとして左の四つの事について家庭に調査紙を出してみた。

A 家庭での交友について

B あなたのお子さんが日頃よく話題にする幼稚園の友達

について話題に出る友達の名

話の内容（よい話でも悪い話でも）

C 組の友達についてお子様におきき下さい

（一体この位の年齢の子供は組の友達をどう考えているのだろうか。）

入園当時にきいたとしたら恐らく眼の前に見える友達や今迄あそんでいた友達を答えるだろうと想像される、しかし一年たった今、案外子供の観察も正しいかもしれない、又私の眼にふれない内容が浮んでくるかもしれない、という考えから調査してみた

山の組の友達で好きな人は誰？

（どうして）

山の組で好きでない人は誰？

（どうして）

好きでない人というのと、きらいな人というのと結局は同じであるが、日頃から、友達に好ききらいなく誰とも遊ぶように指導しているのでも、せめて好きでない人という事にした（苦しい立場）

尚、先程言った様に偶然性の答かどうかを調べるために家庭でしらべてもらう他に、私が幼稚園で一人一人にきいてみた（子供が一人である様時に何気なくきいてみた）

D 父母の社交性について

（この記入は、自分のことはよくわからない場合もあるのでは父を、母は父を批判してもらう様にした）

（父母の消極性、積極性が子供に関連しているかどうかを調べてみたかった）

父母各々について積極的か消極的かその理由として

考えられること。

幼い頃はどうかだったか。

以上の四つについて調べてみた。

A B D は母親に記入してもらい、C は子供か

らきいたまを記入してもらった。

○調査のまとめ

そこでこれをまとめてみると

A、家庭での交友について

家庭で友達と遊ばない者 九人

家庭で友達と遊ぶ者 二十八人 である

理由としては、

遊ばない方は
環境が悪い（のと同じ家庭が少ない）
四
同年齢の遊び相手がない
二
話が合わない 一（幼稚園がちがうため）
兄弟と遊ぶから必要ない 一

遊ぶ方は

どういふ人と遊ぶか

近所の友達 二〇人

幼稚園の友達とだけ 八人

どんなことをして遊ぶか
ままごと、お絵かきが一番多く、あとはここにあげる順になっている。

①ままごと・お絵かき ②本よみ・鬼ごっこ・かく

れんぼ・人形あそび ③電車ごっこ・砂あそび ④

ゲーム（カルク・トランプ） ⑤積木・自動車・三

輪車 ⑥刀剣あそび・ブランコ ⑦縄とび・まりつ

き・土いじり・石けり ⑧学芸会ごっこ・学校ご

こ（幼稚園ごっこ） ⑨野球・スベリ台・ガマ蛙と

り・おどろ・ぬりえ・ピアノ（ピアノ等はおけいこ

している人が多いのだが、記入する母親が、あそび

と考えていない為、一番少ないのではないかと思う

一人でと兄弟とあそぶ時とどちらが長いか。

友達と遊ぶ方が長いという方が少し多かった

結局、家庭で友達とあそばない子供九人の
中、七人は幼稚園で遊べない子供であった。

今は遊べるようになったがなかなか仲間に入りにくく、私に気をもませた子供であるので驚いてしまった。

この七人の中一人っ子が二人、末っ子四人である。やはり一人っ子や末っ子に多いと言えようである。

親の方からは、よく近所に友達はいるが言葉が悪くなるとか、悪い影響がいろいろあるので遊ばせないという話をきく。又、心理の先生にうかがうと同年令の友を求めているのだから遊ばせない方が、もっと悪いと言われよう。本当にそうだということがはっきりしたような気がした。

B 日頃、話題に出る友達と、話の内容について

男女に分けると、

男の子十九人中十六人について話題があがっている。

A (十一人が話題にしている) 大きい、高い、お兄さんみたい、強い、お利口さん、遊びの様子

B (七人が話題にしている) あそんだこと、おべん当おそい、おべん当箱大きい、何となくき

C (七人が話題にしている) よく泣く、食べ物にすぎきらいが多い、小さい、おむかえが来ないとベソをか

D (六人が話題にしている) 面白いことを言う(ひょう

きん) 物しり(むずかしいことをよく知っている) 強い、高い大きい声、スキップがとても早い、あそんだこと

E (五人が話題にしている) 小さい、かわいい、おとなしい、スキップがよく出来ない

F (四人が話題にしている) おかたづけをよくする、らんぼう、あそんでくれる、スキップ等について

その他五人の名が出ている。

悪いことばかり出ているのはこの中三人あり、押すとかいじめる、後から来て運転手になる等。

女の子は十九人中やはり十六人について話題があがっている。

A (十一人が話題にしている) 小さい、泣き虫、妹みたい、御飯こぼす、かわいがってあげた

B (八人が話題にしている) お姉さんみたいによく面倒をみる、いろいろのおけいこをしている、お母さんが先生、一寸さわると泣き、みんなはあやまる

C (七人が話題にしている) 絵がとても上手、かわいい、かみの毛がワンワンみたい

D (六人が話題にしている) いつもままとお母さん役になりたくてけんかしたりする

E (六人が話題にしている) やさしい、にこにこしている、えらい

F (三人が話題にしている) ビアノ上手、毛が長い、かわい

わいい、赤ちゃんみたいな言葉

三人以下一〇人についてあがっている、洋服やエプロンについて言っているのは一人だけである。

悪いことばかりあがっているのはこの中二人あり、お母さん役をゆずらない、いじわる等。

この調査で子供達がよく友達のことを家庭でも話題にしていることがわかる(きかないと

言わないというのが二人あった) そして特徴をよくつかんでいて、本当に、この通りである。小さくても子供の言うことは卒直で尊重出来ることだと思つた。

尚、ここで私が日頃眼にとまらず、知らないでいることが出てくるかもしれないし、出てくればよいと思つていたが、その様なことはなかった。

C 組の中で好きな友達、すきでない友達

理由について

好きな友達

男の子十九人について十六名があがっている

A (八人が好きと言っている) 男の子の約半数に好かれている

B (五人が好きと言っている) 男の子の約四分の一

C (五人が好きと言っている) 男の子の約四分の一

D (四人が好きと言っている) 男の子の約五分の一

E (四人が好きと言っている) 男の子の約五分の一

F 他三人、二人、一人という様に七人の名

女の子十九人について十六人の名があがっている

A (二〇人が好きと言っている) 女の子の約半数に好かれている

B (六人が好きと言っている) 女の子の約三分の一

C (六人が好きと言っている) 約三分の一

D (五人) //

E (五人) //

F (四人) //

G (四人) //

H (四人) //

合せてみんな好きと答えた者三人
好きでない友達

男の子十二人の名があがっている

女の子九人の名があがっている

きらいな人はないというのが六人

好きでない方では男の子は、A B Cの三人が多くての者からすかれていない

A (九人にすかれない)

B (八人) //

C (八人) //

好きでない女の子の方は、A Bの二人がはつきりしている

A (五人にすかれない)

B (三人) //

理由について

(好きな理由の主なもの)

よく遊んでくれる

けんかをしない

やさしく親切

かわい

その他

右の中でよく遊んでくれるからというのが一番多い。

(好きでない理由の主なもの)

いじわるをする

乱暴をする

人の物を取上げたりあそびのじゃまをする

泣虫だから

鼻をいづつたらしめているから

その他

右の中で、乱暴だから、いじわるするからが一番多い

こうしてみると、好きなもの、好きでない者の多くは話題に出ている主であった。

幼稚園で私が一人々々について同じことをきいたのに対してくらべてみると

同じ答えをしているもの 二六人

すきらいどちらかが同じもの 四人

全くちがう答をしたもの 四人

欠席で一方的にしか答をえられなかったもの 三人

右の様に殆どが同じ答であることがわかった
今迄は子供達がどの程度、はつきりと友達を批判しているかという事が疑問であったが、

こうして両方をくらべてみて、この時のゆき

当りばつたり答をしているのでないという

事ははつきりわかつた。

D 父母の社交性については

積極的な父 一五人

母 一八人

消極的な父 一一人

母 二一人

中間 母 二一人

父 三一人

母 七人

右の様に積極的な父母、二人に対し、消極的な父母、

三人で、これでは子供のことは言えないと何だ

かおしくなつた。

更に父母共に積極的なもの 四組

消極的なもの 八組

その他はどちらか一方が消極的、積極的となつてい

原因として考えられることを拾つてみると
積極的の方は

①育つた環境上(交際家の家だった。人に接する機会が多かつた。教育者の子など)

②現在の職業上

③性格

④教育上その他

消極的の方は

①性格(内気、無口)

②育つた環境

以上が主で、話し下手、経済上、多忙のため、職業上手である

父母の幼い頃はどうか

・交らない者が多い

・交つたものでは、幼い頃積極的だったのが積極的になつた者六名(父親が多い) 幼い頃積極的だったのが消極的になつた者四名(結婚後の環境等で母親に多い)

そこで幼稚園でなかなか友達と遊べなかつた子供について調べてみると、主として母親が消極的である者が多い

いのは驚ろいた(九人中例外が三人あるが、あとの六人は母そっくりである)

母親自身が幼い頃

いつも一人で遊んでいた

家の中ばかりにいた

恥かしがりやで名前も隣に言えなかつた

小さい頃内気がひどかつた

泣虫で一つ年下の妹と一緒にないと幼稚園へも行けなかつた

学校では思つた事が発表出来なで困つた等

六人共それぞれ記録されている

よくこの子は私の小さい頃にそっくりで困ります等という話をきくが、それが果してどの程度であるか、今度しらべてみて驚いた。

幼児の発表力について

〈 研 究 発 表 〉

関 治 子

普段口数が少く、何か聞いてもなかなか答をせずに「うん」と頭でうなずくだけで用を足してしまふような子どもが、私と二人きりで庭にいる時、家での出来事などをすらすらと話出して驚威を感じると同時に、とてもうれしかった事がある。

特別の障害のない限り、自分の言葉で話すという事が出来るようになってくる幼児では、黙って静かに遊ぶというよりは、本来の姿はむしろ、話しすぎなものだと思ふが、一旦集団の中に入ると、すっかり変ってきてしまふ。

その人の持っている言語の能力（語彙数・文章の使い方）というものにプラスして、性格、殊に集団の中に入った時の社会性などが随分大きな力を持っていると思ふ。「自分一人」という事と「自分をよく知っている親しい家族の中で」「親しい友達の中で」「はじめて遊ぶ友達の中で」「見知らぬ集団の中で」という対人関係の場が違ふことに適応していくのは大変な事だと思う。私達大人でも、対人関係の場というものでは、個性が強くなっているの、すべてに適応していくという事は出来ないが、抑制する力というものが一

方にあるから、その場その場を対処していくという事も出来てくる。

対人関係の社会集団のはじまりである幼稚園に於て、人の中、人の前で話すという事を考えてみた時に、幼児の特性として、次のような事を感じた。

1. 幼児は、場の不安というものがなければ、人と話すのを好む。

2. 自分の経験した事、或は幼児独特のうそを得々として話したがる。

このように一般に話したがる傾向を持っているようである。これが更に年令的に進んでいくと、

3. 人を意識して話したり、自分というものを認めて貰いたがる。

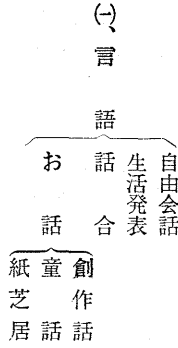
という傾向がみえてくるように思った。

幼稚園では、幼児の知らない単語をどれだけ沢山覚えさせるかとか、文字を教えるという所に教育の目標があるわけではなく、集団社会の中で、望ましい社会生活を送るよう、自分の意志というものを人に正しく通じ、人の意志もよく聞き、判断をするような所に目標も意義もあり、又それだけの困難もあると思ふ。

そこで、一体人の前で幼児はどれだけ自分を発表するものか、「人の前で」という特別条件を考慮して、今迄の二年余りの経験をふり返ってみた。

これは意図的に実験的な資料ではないが、保育日誌に記録された結果で、計画的な研究でない点はおことわり申し上げたい。

人の前で発表する場面を考えてみると、



(二)、うた (三)、ゆーぎなど動作を伴うもの
(四)、劇あそび (五)、知能検査
言語のうち、自由会話は記録もむすかしく、友達同志の会話では私のきいていない事が沢山あるので、私の実際にきいた生活発表をとりあげてみた。

三年保育のときの実態

男児九名、女児九名の計十八名の一クラス。三年保育の為、生活発表の機会は少く、十月からはじめ、それと併行してうたを皆の前で

うたった。

| | | | | |
|-------------|---|---|---|---|
| 一人であたえる | 女 | 男 | 女 | 男 |
| うたいたいがうたえない | 0 | 1 | 3 | 0 |
| 出て行ってはひきかえす | 2 | 3 | 0 | 1 |
| 全然しない | 4 | 3 | 0 | 0 |

三年保育の一年間を通して

| | | | | |
|-----------------|---|---|---|---|
| 人の前で積極的に発表したがる | 女 | 男 | 女 | 男 |
| 発表はするが自発的でない | 3 | 4 | 5 | 3 |
| 人の前ではなかなか発表出来ない | 1 | 2 | 0 | 0 |

人の前でなかなか発表出来ない子どもは、他の幼稚園生活がまだスムーズにいていない所に理由もあるが、全然出来なかつた七人も三人に減じた。却って、無邪気に人前でしたがる子どももいるわけで、何かにつけて、雰囲気をもりたててみたが、積極的な子どもが八人にもなつた。

二年保育のときの実態

三年保育からの男女児十八名に、新入の男児十名、女児十名の計三十八名の一クラス。発表の機会は一年を通して生活発表十三回、うたの会二回、劇あそびの話し合い四回、自紙芝居の発表、その他の話し合いなどで、

ずっと多くした。

1. 生活発表

場になれている子どもに発表させながら、新しい子ども達に発表させるように仕向けて指導した。六月には、全然しなかつた中から二人発表する事が出来、十一月に、全員が草原で輪になって坐り、端から順々に発表するようにしたところ、一人残らず、口を開く事が出来た。簡単でもよいという事と、場のつくり方などから、安定感があつたのか、この時はプラスになった。

皆の発表の折、私自身も何でもないつまらないような、実は本当の生活経験を話すと、つられて同様に話す子どもも出て来た。

九月頃から、特に発表したがる子どもが、くわしく長く一日の出来事を話す傾向が出て来た。これは男児三人であつたが、他の大部分は、比較的短くて、こちらから質問を加えたりして完全な話しになる場合が多かつた。又、子どもは過去・未来の時の観念がはっきり把握されていない為、友だちが〇〇へ行つたという、自分も以前行つた事のある〇〇に昨日行つたような気になつて話す事もあつた。年少に行く程多いと思う。

二年保育の一年間を通して

よくくわしく長く話せる

いつも普通に話せる

(この中にはいつも短い話、いつも小さい声のものもある)

話するが途切れ易い

(この五人はいずれも新入のもの)

| 女 | | 男 | |
|---|---|----|----|
| 3 | 2 | 16 | 12 |

2. 歌

ある日「なるべく一人でうたいましょう。」という事でうたをうたった。

| 一人であうたう | | 二人であうたう | | 三人であうたう | | 四人であうたう | |
|---------|----|---------|---|---------|---|---------|---|
| 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 |
| 6 | 10 | 6 | 4 | 3 | 0 | 0 | 4 |

組んでうたう時は同性同志で、仲のよい友達이었다。

歌となると歌詞とメロディーを知っていないてはならず、集団の前では余計気おくれがあるが、子ども達は歌が好きであるからうたの会のような形式にして楽しませたり、或は二・三人に皆であうた後うたわせたり、ごっこあそびの中で一人ずつうたわせてみた。指名しても憶せずに歌うもので、いつも同じ

子どもを指名しない事を気をつけた。

3. 劇あそび

劇あそびでは、はじめの話し合いから、役の決定、動作、セリフなどすべて人の前で発表しなくてはならない。思わぬ子ども達の性格の障害にぶつかったり、保育者が普段気をつけながらもその子どもについて固定した観念を持つてしまいがちなのに、よい反省となり、よい収穫にもなった。

劇という雰囲気にあこがれてか、子ども達の劇に対する意欲と劇あそびの喜び方にはおどろかされた。

組一番の権力者でリーダーであった男児が、意外にも、自分のなりたいたい役が、最後まで皆の前で意志表示出来なかった。リーダーとして体力的に優れていたが、大変意気地なして、お話の発表も不得手であった。翌年の劇あそびでも役をきめるのに又、同じ事をくり返していた。

又、ある役を三人位で練習し、一人が休んだ時、次の一人は自分がどうも大きい声で云えないといって引きさがり、残りの一人がした事がある。日頃わけわからずの所があり、余り発表も得意ではなし、私自身この子ども

についてはよくわからずいたのであるが、よく落ちついて、思いがけずしっかりし、今まで片鱗すらみられなかったのみ込みのよさにおどろいた事もあった。

セリフは比較的短く簡単なものが多く、多勢で云う場合が多かったが、生活発表でよく出来ない五人は、この劇あそびでも殆ど聞えない程の声だった。こういう子どもには、動作などよい時にほめたり、何かの形で自信を持たせるように指導してみた。なかなか自分の役をきめられない子どもには、して出て出た来なければ他の役をしてみてもよいし、絶対的でない事を話して、迷わずに一応きめるように指導した。

4. 知能検査時の発表のようす

特に知能検査という特別な場面をとり挙げたのは、子ども達に数多く接している私が、検査者となって一人ずつ実施したので、特別なテストの雰囲気の中で発表の態度をみる事が出来たからである。

ここでは、I・Qとの関係はふれない事として、田中ビネー式知能検査では、言語性検査の場面が多いので、発表せざるを得ないから、これはよい機会であった。

生活発表でくわしく出来た四人

- 一、興味が表面的で何となくうわすべり、質問の意をつかりと把握していない。
 - 一、よく話す落ちつきがない。
 - 一、よく答えるが要領を得ていない。
 - 一、適切に答えている。
- 数多く話す子どもには、発表力をこわさずに、よく落ちついて考え、適切な答をするように注意する事を指導する必要性を感じた。

生活発表では普通に出来る二十九人

- 一、よく粘って考える。
 - 一、真剣な態度でしている。
 - 一、活潑さが無いが答える。
 - 一、生活発表の時と同じ態度調子である。
 - 一、劇あそびで役のきめられない男児
 - 一、言葉や表現を知らないのか迷う事が多い。
- 生活発表不得手な五人
- 一、答はするが、途切れ途切れ話す。
 - 一、答にうかつなところがある。
 - 一、なかなか返事をしない。
 - 一、一旦だまってしまうとなかなか返事しない。
 - 一、余り口をきかず、ただにこにこ人の顔をみている。

一年保育のときの実態

一年保育はまだ約二ヶ月にすぎないが、この間生活発表五回、話し合いは雨の日、速足、

劇あそびなどをした。

1. 生活発表

長くくわしく話せる

(このうち三人は三年保育より)

普通 (時々長く話せる)

何か難点がある

| 長くくわしく話せる | | 普通 | | 何か難点がある | |
|-----------|---|----|----|---------|---|
| 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 |
| 0 | 7 | 16 | 10 | 3 | 2 |

長く話す子どものうち創作話二人、桃太郎の話一人した。

難点のある五人の状態と考察・指導

⊆Aについて▽(男児)

1. 発表の状態

すぐに話が出来ず、一分二分と考えたりだまってそれから話し出す。五回のうち三回までテレビをみた話題。うたもうたい出しがおそい。

2. 日常の状態

組では人気があり、のんきで子供らしい。集中力・耐久力は余りなく、幼い所がある。

3. 家庭の状態

独り言をよくいう。

4. 原因、性格的

5. 指導

この子どもには暫く話し出さずに立っている間、皆が笑わないようにし、発表意欲を

失わせぬよう注意し、普段の遊びやおべんとう時に近くに坐って、誘いかけて質問しては話すように仕向けて、段々と間をおかずに云えるようにしている。

⊆Bについて▽(男児)

1. 発表の状態

「さ行」が言いにくく、発音はつきりせず、皆の方をみないで、私の方ばかりみている。うたは鼻声。

2. 日常の状態

おとなしくて、一つの事を長くしている。描画・砂場・積み木などすべて電車と関係のあるものが好きである。全般に余り口はきかず、甘える所がある。

3. 家庭の状態

こまかい事を気にし憶病である。「さ行」発音に難点がある。

4. 原因

気が小さい。発音に難がある。

5. 指導

「さ行」がむずかしいので、気をつけてゆっくりに云わせ、大きな声で云うように、くり返し注意をする。友だちとよく話すようにする。

2. 劇あそび

| | | | | | | | |
|-------------|---|-------------------------------------|---|--------|----|--------|---|
| 自分の役がきめられない | | セリフもよく云える (このうち男児二人は生活発表でもよく出来る) | | 普通に云える | | よく云えない | |
| 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 |
| 0 | 1 | 9 | 3 | 7 | 12 | 3 | 3 |

皆が大きい声で云う事と、云えない役になつて嫌がる時にはかえて、他の役でよかつた時とははめてあげるといふ指導法をとつた。

3. 家庭調査

人前で発表するのに、お家の方は御自分のお子さんをどのようになつていられるか調査してみた。

| | | | |
|-----------------|----|-------|-----|
| 無口で困る | 男2 | どもる | 男11 |
| 早口 | 男2 | おしゃべり | 男2 |
| 独り言 | 男0 | 声が大きい | 男11 |
| 人がいると喋らない | 男1 | | 男1 |
| はつきり云わない | 男0 | | 男0 |
| 普段無口で喋り出すと止まらない | 男0 | | 男0 |
| 先生になじまない | 男1 | | 男1 |
| 友だちなじまない | 男1 | | 男1 |
| こまかい事を気にする | 男3 | 憶病 | 男1 |
| あき易い | 男1 | 興奮し易い | 男2 |

発表不得手な五人

人がいると喋らない 2 独り言 1
「さ行」が変である 1 憶病 1
こまかい事を気にする 3
特にお家の方も、人前で話せなくて困る事を訴えて居られた。

考察

以上が二年余りの幼稚園に於ての人の人前でという限定された場面からみた発表力の実態であるが、子どもには次のような型(特徴)があるように思った。
1. 無邪気に歌でも話でもすぐに出来る。
2. 知っている人、なれた人の前だと、とてもよく話したり発表する。
3. いろいろな人と交わず、いつも特定の人としか遊んだり話したりしないが、人の前で割合と自分を発表出来る。
4. 遊びには積極的でリーダーにもなり、活潑であるが、人の前では一人で云つたり意志表示出来憎い。
5. 家でもどこでも人の前だと話せない。
6. 神経質で、些細な事が気になって、口をきく事が出来ない。
7. 発表するまでに考えをまとめたり、云う事をおもひ出すのに時間がかかる。
8. 発音や話し方にくせがあり、それが障害となつて話しくい。
これら発表力の有無は複雑な原因が重なり合つて一概に云えないと思うが、原因として次の事を考え、お家のようすやお家の方の意見

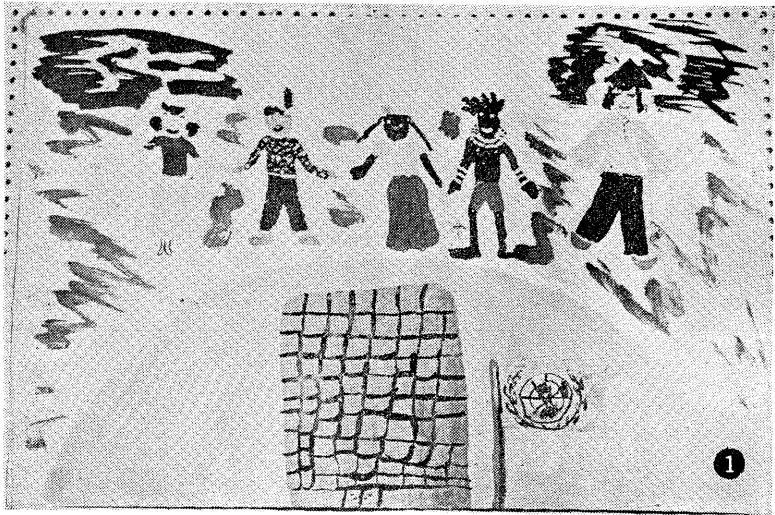
も伺つて検討し、指導方針をたてるようにして来た。

1. 先天的なもの。
 2. 現在の家庭環境による。
 3. 神経素質による。(人の前になつと恐ろしい。すぐ悲観する。自分の才能に自信ない等)
 4. 感情不安定による。
 5. 社会性欠乏による。
 6. 言語機能に障害がある。
- 発表力というものは、一つの例えば生活発表という面からのみ、みていくのでなく、思わぬ機会にその子どもの違う面を見出す事があるので、その子どもに固定観念を持つてしまわぬように注意し、視野を広く持つていかねばならないと思う。
- 特に児童心理学でも、現在では児童語の研究というより、言語は言語だけでは何でもなく無力であつて、その周囲があつてはじめて意味と力とを持つてくるという言語心理学の考えの主流があり、言語社会学というのが、近來勢力を得て来ていて、言語の社会的拘束や、微妙な感情的差異などに気付かれはじめている。
- 言葉を使つて発表する事が、言葉だけの問題でなく社会的拘束や微妙な感情で果せたり果せなかつたりする事が、子どもたちの実際を通してよくわかつたと思う。
- 今後は今迄の体験をいかして指導を考慮していきたいと思う。

(お茶の水大附属幼稚園教諭)

国際学校の子供の繪

アメリカ大使館文化交換局提供



(1) いろいろの國の子供達が手をつないで国連の建物を囲んでいる所

ニューヨークのロングアイランドにある国連の国際学校には、世界各地から子供が集まっています。此の学校ではどこの國の子供達にも合うようなカリキュラムが作られています。

この学校の芸術作品は特に興味深く、それぞれの土地の特色があらわれ、しかもここで教育されている中に、国際的な理解の態度も表現されてきます。

国連の国際学校は、一九四七年に国連で働らく両親達によって始められました。始めは二十五人位の子供しかいませんでしたが、次第に増大して、現在では三十三カ國の國の一七五名の子供がいます。国際的な学校の特色を出すために、十一の違った國々から二十九人の先生が来て教えています。

社 会

研 究 協 議

司 会 ・ 菊 池 ふ じ の

講 師 ・ 松 村 康 平

津 守 真

菊池 私共がこのたび「幼児の教育内容とその指導」というこの冊子をまとめた動機や経過について、説明致します。

保育内容は、大正十五年の幼稚園令の發布以来、いわゆる五項目の時代が、長くつづいておりましたが、戦後昭和廿二年に、保育要領が文部省より発表され、それには十二の経験内容が示されてありました。最近文部省が中心になって幼稚園教育要領の委員会がもたれ、この保育内容についても審議され、大體、健康・社会・自然・言語・音楽リズム・

絵画製作の六つにきまつております。これらの六つの生活は、大人がわざわざとつてつけたものではなくて、日常の子供の、

自然の生活の中に見られるものであります。そして子供の生活の中では、音楽リズムの生活とか言語の生活とかいうように、劃然と分化してあるものではなくて、自然に自由に遊んでいる中に、観察の生活もあれば言語の生活もあり、社会の生活もあるといったふうで、あるものは実に混然とした未分化ないきいきとした実生活があるのみなのであります。これを私共大人が、考えるための便宜のために、こうした六つの分野にわけるのであることは、子供と親しく接しておられる皆様には納得のいかれることだと思います。

小学校では各教科がはっきりと分れており、それぞれの教科の内容も配列も研究され

系統立っておりますが、幼稚園の方はまだしっかりしたものができていないのが現状だと思えます。

そこで私共は、なんとかすっきりした系統立てをして研究してみたいと思つて、当大学の児童科の先生方に相談をして、発達のな線を出して頂き、それについて具体的な経験の場、望ましい経験内容、更にその指導の仕方などについて、当幼稚園で今まで實際やってきたものをまとめたものが、この「幼児の教育内容とその指導」です。

それでは次に、この教育内容の社会の部についての大体を説明致します。それにつづいて、「社会」について、活潑な討議をお願い致します。

解体保育について

(質問) 私のほうの地域は、漁村、農村、家庭環境は職工。子供たちは遊びの要領を知らず、非文化的、粗雑な子供が多い。そのため、自由遊びを主にしてやつたが、組の間に対抗意識が出た。そこで解体保育を行つてみた。(四グループ、言語、積木、絵画、製作) その目的は、先生の独占をなくすこと、全先生の人格を全部の子供に吸収させることにある。結果として対抗意識はなくなったが、自分の子供が何をしているのかわからない。先生の精神的身体的労働が多くなるという欠点が出てきた。この大きいやり方を今後続けるべきかどうか伺いたい。(園児数二〇〇名)

(経験者の発表と意見)

1、食事のある日の午後(一週に二日間)解体保育を行ったが、他の組の子供の名前や性

質を知ることができ、又子供同志も広く交際できた。(園児数二六〇名、姫路の幼稚園)

が、自分の組の子供はいつも自分の視野の中において、気持の上で抱いていたというよ
うな気持の上から、(4)自分のしたいことをす
るという点で興味本位に流れすぎはしないか
などのいろいろの点から、よいことはいろい
ろあると思うのですが、当園では実行してい
ない。

3、入園希望者を全部取替している。そのた
めに自由保育ができず、週に何回か解体保育
を行う。子供の長所をよりよく伸ばすことが
でき、子供の性質を深く研究できる。

(意見) 解体保育は組や、更には幼稚園全体
の人数にも大いに関係がある。余り多人数の
ところでは、解体保育などは絶対にできな
い。

4、一年保育で二百名、一クラス五十名であ
る。地域環境は、農村、市が半々位である。
対抗意識をなくすために、一週に何回か朝の

目的はいろいろあるが、結局は先生の人格、
又家庭の事情をよく知らなければいけない。
松村 それはなかなか実行しにくいことで、
解体保育をなさった勇氣に対して先ず敬意を
表す。この静岡の方は、解体保育をなさつ
た経験によって、今のところでは駄目だとい
うことに気がついた。又対抗意識を取り除く
ためには、子供の自発的に出てくる気持によ
って取り除くようにしたという御意見でし
た。この場合、先生が、自分の子供たちとい
う意識、先生の人格ということによって、問
題が発生する。このようなとき、子供中心か
ら、先生中心にうつすのはいけない。クラス
わけは、子供たちの要求によって出来た自然
発生的グループがよい。この自然発生的グル
ープは、それぞれの特性をもった特異な子供

集りをやる。(はじめのうちは回数を多くす
る) 子供と先生を一堂に集め、リズム、紙芝
居などをやる。(それぞれの先生の得意な部
門を各々受持つてやる) 一学期の中頃から時
間を十五分位にしてみた。

たのグループとする。
先生は、自分の得意とする技術担当をし
て、これによって組をつくる。その自然発生
グループに先生が出張して、万辺なく教育を
する、という形式がよいと思う。
津守 (1) 菊池先生の言われたように、子供が
自分のお家、自分のお母さん、いつかえつて
きても自分の家があり、自分のお母さんが自
分を待っててくれる、という気持が欠けてこ
ないだろうか。

野で子供に接することができるし、子供もま
た、自分たちの好むものを、最上に伸ばし得
るわけで、その点とてもよいことだと思つて
いる。しかし、(1)子供の集団の特質として、
自分は何組、何先生に所属しているのだとい
う所属の要求を満してやるという点でどうか
しら? と懸念されるし、(2)自分の受持の、
健康上、性質上気になる子供のあとを追うて
十分に見てやるということができないし、(3)
又これは少し先生の方の我儘かも知れません

(2) 各分野で子供を受持つときに、自分の受持
の分野以外に子供の心が向いたとき、その間
の連絡がうまくいかないのではないかと。
子供一人一人の特徴や性情を知ることができ
ず、自分の分野を通して子供を見ることがな
り、子ども自身よりも製作や音楽などが、直
接の対象になってしまおうのではないかと。

菊池 解体保育はそれぞれの先生の得意な分
野で子供に接することができるし、子供もま
た、自分たちの好むものを、最上に伸ばし得
るわけで、その点とてもよいことだと思つて
いる。しかし、(1)子供の集団の特質として、
自分は何組、何先生に所属しているのだとい
う所属の要求を満してやるという点でどうか
しら? と懸念されるし、(2)自分の受持の、
健康上、性質上気になる子供のあとを追うて
十分に見てやるというということができないし、(3)
又これは少し先生の方の我儘かも知れません

小学校との連絡について

十分に見てやるということができないし、(3)
又これは少し先生の方の我儘かも知れません

小学校との連絡について

十分に見てやるということができないし、(3)
又これは少し先生の方の我儘かも知れません

小学校との連絡について

(質問) 公立の幼稚園がなく、全部私立の幼稚園ばかり
の地方である。小学校に入学した場合、家庭からきた子供に
標準がおかれているため、一学期間ぐらいいは、幼稚園からき
た子供は退屈を感じ、かえって行儀が悪くなる。
もっと高いものを求めている子供がいる場合、伸びるもの
はもっと伸ばしていったら新しい面が開けると思う。小学校
との関連性が欲しい。

(意見) 1、小学校は義務教育であるから、
小学校の要求は当然強い位置を占める。私の
方では、三月初めと六月の二回、小学校の校

長先生、一年の受持の先生に来ていただいで、幼稚園の先生との話しあいをする。幼稚園、小学校各々の教育方針や要求などを話し合う。

この小学校の場合、生徒の半数以上が幼稚園児である。三年位続けているが、大変いいと思う。

2、家庭から来た子供の至らぬ点を見つけてはよししたり、先きばしつたことをするし、家庭から来た子供ほど、新鮮味がない、という欠点があるが、又、いい点としては、社会性に富み、クラスを中心となっている、などの点がある。

3、私立の幼稚園であるが、全く学区の幼稚園のようなものである。六月に小学校の先生と話しあいをする。小学校では幼稚園を経て入ったのを三組に平均にわけている。結果としてクラス全体のレベルが上ってきた。入学当初、幼稚園の雰囲気を少し出し、家庭からきた子供に馴れさせる。この場合、小学校の先生の受けとり方が非常によかったので感謝している。

4、小学校が2組ある。幼稚園から来た子供と、家庭から直接来たのに分けているが、幼稚園から来た子は、「お」をつけすぎる。又先生に慣れすぎている。又あまりいろいろなことを教えこまれすぎるといふことを

小学校の先生から言われる。

5、私の方では(静岡)五つの幼稚園が団結して、小学校に上つてからの各幼稚園による不均衡をなくすようにしている。又一人一人の幼児の特徴をこまごまと小学校の先生にお話しをする。

(質問) 特異な子供の性格を、小学校の先生にお話ししておくことは、入学後小学校の先生がそのお子さんを見るのに先入観になりはしないか、良い子の場合は支障もないと思うが、問題児などの場合にはどうでしょうか、問題児の取り扱いについて伺いたい。

(意見) 私の方では、(静岡)知能テストの結果、問題になる子供は相談所の専門家によく調べていただくようにしている。

津守 小学校との連絡問題について、小学校と併設せられ連絡のあるところのお茶の水ではどのようにしていますか、菊池先生お話しして下さい。

菊池 ここでは、小学校一年の受持が決まると、その方々は或る日、揃って、一日中幼稚園の、今度ご自分達の迎えられる幼児、即ち幼稚園の卒業する組の子供たちの生活を參觀される。子供たちの生活ばかりでなく、保育室のしつらえや施設や備品などもこまかく見えていられる。そして当番の幼児たちが、張りきってみんなの世話をしたり、はつきりと挨拶をしたり、先生の手伝いをしたりするのや、食事前後の手洗い、うがいなどの励行さ

れているのを見て、「こんな風なのだから吾々の方でも考えなおさなくちゃならない。」とか、積木、絵本、ままごとの設備などを見られては、「小学校もこういうものを揃えておくほうがいい、少くも一学期は、こうした中で遊びの生活をさせなくちゃうそだなあ」などと話していかれます。事実一学期の間は、四十五分授業の中を廿五分位を授業時間らしくし、あとの廿分は組単位の自由遊び；他の組の邪魔にならないようにしながら―という幼稚園の形態をとっている。そして六月の末頃、小学校の先生と幼稚園の先生とが話しあいをすることになっている。ここでは小学校と幼稚園とはあまり問題はない。

文字の取扱について

(質問) 幼稚園で文字を教えるべきかどうか、父兄の要望は非常に強いのであるが、小学校の方では教えないでほしいと言っている。

(意見)

1、父兄の要望に負けないようにすることが大切だと思う。私の方では、三学期に、小学校の先生と父兄との連絡会を開き、父兄から質問事項をまとめておいて、小学校の先生から直接に幼稚園の父兄に説明していただくようにしているが、大変に結果はよいと思つている。会の時期を三学期でなくもっと早くした方がよいと思つているので、今年からは

二学期の終り頃にしたいたいと思っている。

2、普通の公立小学校の場合は、自分の名前がわかる程度でよいが、特殊小学校へ入学を希望する場合にはそれでははいれない。かなり高度のテストがあり、幼稚園で教えないと家庭で方々のテストに連れていく。大学の附属小学校でも同様で、心理学者の意見と実際とは、矛盾しているようだ。

3、三年前には自分の名前ぐらいを教えてみた。二年前からは、ひらがなを教え、昨年からは、連絡会の結果教えなかったが、こんどは小学校の進み方が早くて子供がまごついてしまった。無理に教えこまずに、自ら事物をおして教えている。

4、自然な動機から、例えば看板や名前などから教えていく。

5、幼稚園は知識を教えるところではなく、生活経験を豊かにしていくところである。ある段階にまで発達している子供にはよいが、そうでない子供に無理にやる必要はないと思う。

菊池　ここでは、小学校からも何も要求してこないし、文字を文字として一斉に教えるということはやっておりません。しかし、生活を豊かにし、又刺戟を与えたりして、子供たちが自分から自発的に、文字を覚えたいと思うようになってくれることを願ひながら、絶

えず環境を工夫したり、しむけ方を工夫したりしています。

例えば、黒板に日や曜日を書いておく、とか携帯品置場に各幼児の名前を貼っておく、などもこの気持からでし、又七夕祭りの時など、短冊に字を書いてお星様に上げると字が上手になるんですって、などと伝説を聞かせながら子供たちの文字に対しての関心をいくらかでも目覚めさせようとは絶えずいたします。

×

×

×

×

(41頁よりつゞく)

松村明　親しみを乱雑な言葉づかいによって増すというのは、一応、言葉づかいと切離して考えるべきで、先生方は、地方の特色もありましょうから一概には言えませんが、出来るだけ正しい言葉で話して頂きたいと思ひます。

司会　両先生にはお忙がしい中を、又、先生方も最後まで御熱心に御発言・御討議を頂きまして有意義に終ることが出来、まことにありがとうございます。

(21頁よりつゞく)
○これから卒業までの一年をどの様に指導したらよいか。

とにかくどうやら遊べるようになったのでうれしく思うが、これからの一年間は更に一歩進んだ交友の指導をしなくてはならないと思う。

いつも限られたメンバーのグループであったはいけない。

性格的にも能力的にもかたよらぬ為。

席を時々変えたり、あそびの指導を工夫したり、五才児なら出来るグループの協同作業など、いろいろ考えていかなければならないと思う。

そして、いつも友達と一緒に遊べば遊びも仕事も遣入れない、というのではなく必要に応じては、一人でも落着いてすることが出来るし、遊ぶ時はどんとどんの仲間にも遣入って遊べるというようになる事を理想としていきたいと思っている。

以上つまらない事ばかり述べたが、過去一年間の、しかも自分の組だけの考察なので、必ずしも正確でないかもしれない事をお断りしておく。(お茶の水大附属幼稚園教諭)

然

子 蔵
 木 七
 佐 堀
 会 師

自

司会 これから分科研究協議会をはじめたい
 と思います。堀先生にも御出席いただきまし
 たので、皆様がおもちになった問題をどしど
 しお出しただいて、堀先生のお話をうかが
 ったり、皆様方の御意見もおおいにきき合っ
 て、この時間を有効に使いたいと思います。
 どうぞよろしく。

昆虫や動物の飼育について。

福島県玉川 びんの中で蟻を飼うと、十日程
 しか生きていないのですが、飼う方につい
 て、よい方法がありますか。

堀 びんの中などでは具合が悪い。この幼
 稚園で二方ガラスの箱に砂を入れて飼ってい
 ますが、あれはせますぎます。蓄電池のバッ
 トのようなものの中に砂を入れて何匹もの蟻
 を入れ餌を入れておけば、巣をつくって生活
 を観察することが出来ます。

玉川 板片の中に巣をつくっていた山蟻をと
 って来て飼ったのですが、空気の流通が悪か
 ったせいか死んでしまいました。びんの中に
 土を入れて、それを土の中に入れておいて、
 そのびんの中で蟻が巣をつくるようにした
 ら、蟻を自然の状態で一族をそっくり飼うこ
 とが出来るように思うのですが。
 堀 蟻の社会と蜜蜂の社会は似てはいませ
 ぬが、蜜蜂をかうようなわけにはいきませぬ。

玉川 白ねずみは暗い所を好む傾向があるよ
 うです。白ねずみを飼う時、尿でくさくなる
 のでいつも箱の中を洗っています。それか
 ら、親が生んだ子を食べってしまったことがあ
 ります。青菜を与えなかつたせいかと思っ
 ておりますが。

堀 うさぎでもねずみでもねこでも、人間が
 いじると子を食べってしまうのです。うさぎが
 子を生んだ時、うさぎ小屋を掃除する時は、
 親の尿を手につけて掃除するといひのです。
 ねずみの場合も同じで尿をつけた手ですれば
 よいのです。豚の子は一つの乳房を独占する
 ので、乳房の数よりも多く生まれた時は、多
 い分だけ里子に出せばよいのですが、その場
 合も、その親（里親）の尿をその子にまぶし
 てやれば、自分の子だと思つて乳を飲ませる
 ものです。蟻なども同じで、非常に臭覚が発
 達しているので巣をびんの中などで作らせる
 ことが、なかなか困難です。

玉川 かめを四匹飼っていました、鳥にう
 めて冬眠させ、春に堀ってみましたら、生き
 ていました。
 堀 この幼稚園でも、かめを冬眠させたの
 ですが、水分を土に与えなかつたために、ミ
 イラになってしまいました。いきものには、
 水分が大切です。
 玉川 私の知っている歯医者で綿にかめを包

んで診療室のひきだしの中に入れておいた所、死んでしまったので、その医者は温度の関係だと言っていました、そうではなく、水分の関係なのですね。

堀 そうです。

うさぎを飼う時、日本では、水はいけないと言っています。しかし、アメリカでは、水を与えるということが書いてありました。お産をする時など、のどがかわくので与えてもよいでしょう。

玉川 ねずみも水は禁物であると聞きましたので、青草を与えています。ところが、或人が、毎日水をやっても生きていると言っておりましたが、どうなのでしょう。

堀 矢張り水分が必要なのでしょう。それでは思い出しましたが、かいこも水をあげてはいけません。ですから、ぬれた葉もよくないのです。今、私は家であげば蝶の幼虫を飼っていますが、これも乾燥した葉ではいけないので、なまの葉を必要とします。

玉川 毛虫、いもむしも私の所で集めているのですが。

堀 毛虫、いもむしも、人によつては好き嫌いがありますので、先生が好きであつても、子どもに押しつけてはいけません。無理に押しついたりすると、一生、虫がこわくなることもあります。進んで子どもが世話をし

出すようになれば、自然に愛着が湧いて来ます。かめなどを飼うには、餌が問題ですけれどもみずをつかむのは気持がわるいですね。明石市渡辺 うさぎに、よもぎや桑の葉を与えてはいけないのでしょうか。適当な草がない時、桑の葉をやったのですが、栄養失調になつてしまいました。

堀 いけないことはないでしょう。うさぎの好きなものは、主に人蔘やおおばこなどで、うさぎは、或る程度、草を選択しますから、一種類のものばかり与えていますと、他のものを食べなくなりす。うさぎのきらいなものは玉ねぎで、これは食べません。また、じゃがいも、さつまいもは、多く食べさせてはいけません。おからやふすまなど澱粉質のものに塩を少しませて与えるところろしい。一種類のものを与えるとかたよつてしまつてはいけません。うさぎでもねこでも、子どもの時によく食べたものを、おとなになつても好みますね。ここの幼稚園で食用蛙のおたまじゃくしを飼っていますが、だんだん成長して、今、尾がとれてきましたが、蛙になる

と今より少し体が小さくなり、肺呼吸をするようになるので、水槽の中に丘を作つてやる必要があります。ひき蛙のおたまじゃくしは、大きいとは限らず、かえつて、雨蛙のおたまじゃくしの方が、緑色と灰色の間の色を

して大きいのです。玉川 かめが甲羅を干すというのは、どういうことでしょうか。

堀 かめは、肺呼吸をしている為、やはりそのようなことが必要なのでしょう。うみがめは、岸に上つて砂の中に卵をうみつけます。そして、自然の太陽の温度で孵化します。玉川 かめの雌雄の見分け方がわからないのですか。

堀 それは見分けにくいですね。にわとりなどは見わけ易い方で、名古屋ではその技術が発達しています。古い話ですが、ある中学生が、もんしろちようの雌雄の見分け方を発見しました。解剖によつて雌雄を見分け、それと外觀とを関連づけたのでしょう。かいこなどは、見分けが簡単です。

村瀬 毛虫などを、男児は手でつかみますが、ごく身近なもので、毒のあるのはどんなものでしょうか。

堀 一番手近で危いのは、松毛虫といらむしで、さわると二時間位、痛みます。いらむしは柿・梨の葉にいます。毛虫などは、無理に幼児にさわらせない方がいいのです。三十年位前の話ですが、女子学習院の先生が二年生の自然観察の時間に庭にいた梅毛虫を教室で飼つたところ、その絞の子どもが欠席し出し、理由を調べたところ、学校に毛虫がいるから

登校をしぶっていることがわかり、慌てて毛虫を理科室へ移した例があります。又、幼稚園でかたつむりを飼ったために、矢張り来なくなることがあります。自然物を飼育するということも、いろいろ考えねばならないことがあります。動物は動くので、子どもが興味を持ちますが好き嫌がある。植物は動かないので、興味はうすいが好き嫌がない。自然物の観察には、植物の方が無難でありましょう。動物を飼う場合に、めだか、おたまじやくし金魚などの餌は、かつおぶしを少し削ってやるとよろしい。餌は多くやりすぎると食べ残りで水がくさるから、気をつけなければなりません。水は、東京では水道の水に漂白剤が入っていますから、そのまま使ってはいけません。井戸水でも水道水でも、汲み立てのものはいけません。水温を気温と同じにしてやる必要があります。金魚は、水温の変化が著しいと死んでしまいます。又、小さい器に入れすぎる事もいけません。一つの器にせいぜい二匹が適当でしょう。動物は直射日光を避けることも大切です。

玉川 こちらの幼稚園では、上等な金魚がよく生きている様ですが、どういふ風に飼っていられるのでしょうか。

佐々木 別に特に気をつけていることもありません。水道の水を汲みおきして、一週に一

度位、半分ずつかえる程度です。

上田市飯島 私共の方は、冬、金魚鉢の水が凍るので、むろの中に入れておいたところ、春になって出した時は、非常に元氣だったのに、一月程したら死んでしまいました。水は、出した時から一週一回位かえたのです。

堀 水の中に溶けている空気がなくなっても死にます。日本では金魚は夏から秋まで生きて死ぬのが常であります。アメリカでは、同じものが冬をこします。室内温度が調節されているためです。餌もやらず、水もかえなくても、水草、藻などを入れておけば空気がバランズがとれるし、一つのいれものに二匹位しか入れておかないのもよいことです。いまの信州の方の金魚の場合は、むろに入れたことはよいことですが、むろから出した後の処置に問題があったのでしょうか。とりかえた水が冷たかったのではないかと思えますね。

玉川 かねには、二十日位しか生きていないのですが、生かす方法はありませんか。私の方では、三日に一度位、御飯粒をやり、直射日光には当てないように気を使っています。

堀 自然でない状態で飼うのはむずかしいこととす。ざりがなら強いですよ。会津の方には、ざりがにはいませんか。

玉川 居ます。

堀 百姓は嫌いますね。金魚の話に戻ります。が、今売っている金魚は不合格品が多いのです。

飯島 とのさまがえるを飼い、卵をうませておたまじやくしまでかえそうとしたのですが、駄目でした。どうしたらうまくいくでしょうか。

堀 それは、割合簡単です。水を余り変える必要はなく、ひなたを出来るだけさせます。おたまじやくしにかえった後では、仲間の死んだのを食べさせる。まあ、共喰ということになるのです。

飯島 かまきりを飼ってみたのですが、うまくいきませんね。良い方法がありますか。

堀 あれはなかなかむずかしいですね。私も何回かしてみましたが、不成功でした。あれは生きたものを食べますから、餌が大変です。

茨城県 コンクリートの水槽を二つ作りましたが、どの位たてば、あくが抜けるのでしょうか。

堀 二ヶ月位駄目ですね。まわりに苔がつくようになればよいのです。

東京和田 藻などを入れたらよいのでしょうか。私の幼稚園では、土・日が休園なのですが、その間、餌を与えないでもよいのでしょうか。

堀 土・日位餌を与えないでも心配ありません。これは、てんとう虫ですが、(実物を持って来て示す) いろいろ種類がありますが、こういうものも息をするので、穴などをあけて空気の流通を良くしなければいけません。埼玉県宮沢 かえるを捕えて来て、卵をうんだのですが、孵化しなかったのですが。

堀 それにはあまり世話を必要としないのですか。

玉川 おたまじゃくしが蛙になるまでには、全部うまくいくのでしょうか。

堀 全部というわけにはいかないでしょうが、うむ数が多いので、その分を捕えるのです。自然の状態であれば、大体かえる筈です。

宮沢 草なども多く入れたのですが、うまくいきませんでした。

堀 池などで、自然の状態におくならば、かえるでしょうね。

宮沢 近所で農業を使うので、その農業が卵についていたのではないかとという結論になったのですが。

質問について

東京村瀬 虫の交配については、どの程度に幼児に説明したのでしょうか。

堀 『どうしてでしょうね』と云って、あえて解答をする必要はありません。そうかと云って、『そんなこと聞くものじゃない』などと云うべきではなく、疑問のまま残しておいてよいのです。疑問を、幼児に質問としてどんどん出させることが大切ですが、しかし、その答をしたところで、子どもにはわからない場合があります。例えば、雷はどうしてゴロゴロなるのかという質問に対して、大人が電気放電だと云っても、子ども自身はよくわからないのです。その場合には、『さあ、どうでしょうね』などと、子ども全体に問いかけてみますと、子どもは、『鬼がたいこを叩いている』などと答えたりしますが、そのままにしておいて、だんだんに、本当の答の方へ向けて行くようにします。てんとう虫などを幼稚園で飼っていますが、幼虫、さなぎ、成虫を子どもたちはそれぞれ見えています

が、その間の関連を説明するよりは、その段階を実際に見せた方がよいのです。蟬が、地下に十三年いると云っても、子どもが実際に十三年生活してみなければ、その長さはわかりません。

玉川 子どもが、かめの首の出したり引っこめたりするのに非常に興味を持って、いじりすぎた結果、死なせてしまいました。探究心が旺盛すぎたので、殺すような事になったの

だと思っています。金魚などでも愛着が強すぎて、水から出して大事に持っていることがあります。何事も、経験させるより仕方がないと思います。

堀 子どもは、死んだ玩具と、生きたかめの区別がつかないのです。動くものは生きていると考えています。五年生でも、石は生きてるか死んでいるかがわからない者があります。死んでいるものを、生きていると思うことが多いのです。木などでは、葉が落ちると、枯れたと云わずに死んだと云い、春になると生き返ったと云います。本当に枯れかけた木と、葉は落ちたが生きている木との区別がつかないのです。かめが首を引込めている時、幼児は死んだと思い、又生き返るので興味を覚えていじるのです。

科学的な遊びについて

熊本山本 子ども達の遊びを見ると、男の子達は電車や汽車など科学的な遊びをしています。女の子は、ままごと遊びや粘土などで、ビスケットや野菜を作ることを好みます。女の子の遊びを、もつと科学的な方面へ向けたいのですが。

堀 そういう遊び、それ自身が科学的だと云えるのではないのでしょうか。ままごとの場合でも、葉を使いながら、葉のいろいろな種類の見分け方なども覚えるでしょう。

山本 男の子は機械に興味を持ち、それをよく知っているようですが、女の子はそれを全然知らないように見られます。

堀 それは時期の問題で、小学校一年生になると、電車や自動車の疑問は女の子に多くなります。天体に関するものでは、小学生から中学、高校生を通じて、女の子は月、昼、夜に関する疑問が多く、男の子では星、太陽に関する疑問が多い。植物に関しては、女の子は花、男の子は草木に興味を持つ。しぜんに男女の性によって傾向がちがうものと思われまね。

山本 ガラスの器具や、プラスチックの製品をくらべさせて、その性質の違いを知らせて科学の方面に興味を向けさせたらよいと思えますが。

堀 そういうことよりも、子どもの自然のままに任せて、我々の原始時代にそれをさかんにして来たように、水・砂・泥などを自由に考えて使わせることが必要です。そういうものでいろいろのものを造ることによって、形の基礎の観念をうえつけさせる程度で、あえて、むずかしいものをしらせるよりも、身近なもので基礎を作ることがこの時代には必要です。どこからか、瓦のかけら、れんがのかけらを持って来て、粉にして、泥のおまんじゅうにかける、これが科学的な遊びであると

思います。小学校になると、電気に関する疑問や光に関する疑問は、女の子に多くなります。そういう疑問は男の子は或時期にはまさっていても、一般から云えば女の子の方がまさっています。光に関する疑問が女の子に多いのは、鏡を見る機会が多いためでしょう。現代の科学を子どもに押しつけるよりも、子ども自らがだんだんしらべて行くということが大事なことです。

東京森川 大豆をまいたのですが、小さい箱に多くまきましたので、芽が細くなりました。その後の始末に困っています。植えかえる場所がないのです。

飯島 私共の方では、卵のからに種をまいております。それは、卵のからを二つにきれいに割り、二つ重ねまして、それに各自の名前を書き込み、土をふるい入れてそのからを砂の中に倒れないように埋めます。そして、そこに種子をまきますと根がのび、その成長力によって、からが割れて普通の土地に埋めたようになります。途中で、子どもたちが、からを持ち上げて根の工合を観察することも出来ます。そのために、子どもたちのかく絵でも、植物に根をかくようになりました。堀 たまごのからを使うことはよいことです、一つのからだけで、あさがおを花が咲くまで十分に育てられます。

司会 では、時間になりましたので、まだ質問のおありの方は、後で先生におききたいだくことにして、一先ずこの会を終らせたいと思えます。いろいろありがとうございます。堀 いろいろの点に於て、子どもと先生とが協力して、教えるというよりはむしろ、子どもと共に学ぶという態度が望ましいことです。

新

刊

日本女子大学教授 愛育研究所食養部長
医学博士 武藤 静子 著

栄養学の基礎から給食まで

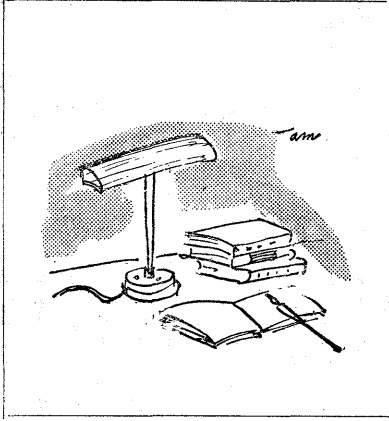
A5判・208頁
定価 250円 丁24

株式会社 フレーベル館

言語

研究 協議

子 子 明 平
治 京 康
関 石 松
会 司 師
黒 村 村



司会 では只今から皆様方と御一緒に幼稚園における言語の問題について、いろいろと討議をかさねていきたいと存じます。日頃皆様がお持ちになっていらっしゃる幼児の言語についての問題、御意見などを伺いたいと存じますのでなたからでもどうぞ御発言下さい。

語尾について

東京太田 先生は子どもにどの位発表させる要求をもつたらよいでしょうか。幼稚園にあっては、おしまいまではつきりいうようにしているところと、そうでないところとあるようですが……私のところでは『これなあに？』と聞かれたら『花』と答える程度にしております。

司会 『花です』と答えさせる方針と、そうでない方針と先生によって違うと思えますけれど、一語文のままか、それとも言葉を文章にもっていくかということだと思えますが、その点では私も迷っております。今のところは『……してね』『……したの』というようないき方をしております。『……しました』『……です』というようにしてよいかどうか疑問をもっております。

文章体でいわせるようにしていらっしゃる先生挙手なさって下さいませでしょうか。

——一人手を上げる。——

東京根岸 下町のため、とても乱暴な言葉を使うお子さんが多くて、それが精神的にも影響するのではないかと思ひ、言葉のしつけはなるべく気をつけてやっております。たとえばおべんとうのあと風呂敷に包むときにも、『つんで』といいますけれど、それは『つんで下さい』といわせるようにしております。

伊藤 私の方は田舎のため、おべんとうの時お湯をくばると『先生お湯』といいますし、紙が欲しいときには『かみ』と申します。でもなるべく言葉をおしまいまではつきりというように指導しております。

東京太田 心理学の方で三才までの幼児は『お湯』というだけで、お湯頂戴も、お湯はいらぬいも、様々な感情・欲求を表現しているのだと習ったように覚えております。それが五才児でしたらば、文章として終までいうのが普通だというように記憶しておりますが……。

新潟 地方では大人でもそういう人がおります。

石黒 東京でもそういう傾向はあると思ひます。私は三才児を受け持っておりますが、やはりお湯が欲しいときは『お湯』と申しますし、ブランコがこいでほしいときは『こいで』というお子さんが多いのですが、して欲しいと

きは『お湯頂戴』『こいで頂戴』と言うようにさせておられます。はじめは注意すると要求をやめてしまつて言わない人もおりました。が、次第に皆言えるようになって来ました。これは私は小さい時から、ものごとを人に頼むときには、頼むような言葉づかいをした方がよいのではないかと考えておられます。

○私の幼稚園でも『です』といわせるようにしておりますが、朝礼の時など『今日のお天気はどうですか』とききますと、『お天気』と答えておりましたが、この頃では『お天気です』と言えるようになってきました。

司会 言葉の教育についての実例をもう少し伺いたいと存じますが……。

高橋 言葉に気をつけると自然と生活態度も変つて来るように思います。大きくなつてから急によくしようとしても無理でやはり小さい時からしつけていきたいと思ひます。

東京 言葉が文章としてとても不完全で、動詞が先になつたり、主語があつたりするお子さんがおられます。簡単な言葉の場合にはわかるのですけれど、長くて複雑になりますと何だかわからなくなつてしまひます。大きくなつてから困ると思ひ、今のうちに何とかしたいと思つているのですけれど、皆様どうお考えになるでしょうか。

司会 こういふ場合、何とか上手にしゃべれ

るように治す方法はございますか。

名古屋 五才児には順番に皆に話をさせるようにしておられます。そして聞いている子どもにあつて批判させておられます。そうするうちに自然と聞く態度もできるようになります。

二〇分位に三・四人話をして、あとで誰のお話が面白かつたとか、またわからなかつた点などを子どもに質問させるようにしておられますので、どういふように話したらよいかも次第にわかるようになっていくと思ひます。司会 文章なども皆から質問されて、自然とわかるいところに気がつくようになるかもしれませんね。

おの字の問題

秩父 私共の幼稚園では先達で『お』の問題について話合いました。あるお母様から子どもが家のへいのことを『おへい』といつてくれるけれど、幼稚園ではどの程度『お』をつけて話しているのかと質問されたことが動機となつたのですが……。

司会 『お』の字の問題では、東京都の公立の幼稚園でも大きくとりあげておられます。ここでは『お』をつけてよいものといけないものとの基準をつくつて、それにそつてやつておられました。私共の幼稚園でも研究しておりますが、まだはつきりした基準はできておりません。ただ外来語は『お』はつけないこ

とにして、あとは今のところ先生自身の判断に基いて話しております。

私個人としては『おこしかけましよう』という方も『いすにこしかけましよう』という方がよいように考えておられます。

東京中野 新聞や雑誌等によく幼稚園では『お』をつけすぎるといふようなことがでておられますが、小学校では『集れ』とか『ここへこい』等と使つていらつしやいます。小学校の生徒さんに対する言葉と、幼稚園の小さい弱々しいお子さんに対する言葉とは自ら違つて来てよいのではないかと思つております。小さいお子さんには親しい気持や優しさを持つてゐる程度なら『お』をつけてよいと考えております。

東京 私が保育の仕事をしだしてから二年目になりますが、いつでも気にかかつているのが『お』の問題です。私は男だから特に敏感に響いているのかも知れませんが、幼稚園の先生は殆んど女であり、女の人は普段から『お』をたくさんつけて話しています。ひどいのは『おトイレ』などというのがありますが、それで女の先生達の『お』に反感を感じながらも、普段いっしょにいと自然と私にも『お』が移つてしまふことなどあるのです。が、まして相手子どもだつたらもつと『お』の影響が多いのではないのでしょうか。例えば

『お集り』などといわなくても、『集まりましょう』という先生の言葉と表情でじゅうぶんな子どもは集ると思います。

東京 ただいまの『お』の問題に関連して一言、二才から三才にかけての幼児は手のことをおててといつても差し使えないと思います。四、五才児になりましたら手でよいと思えます。それから『幼児の教育内容とその指導』の八三頁に、教師のものいい方として、『(六) 否定的な言い方はなるべくしないで、肯定的な表現の方を多くとり入れるようにつとめる。(七) 命令形や禁止句はなるべく使わないように気をつける。』とありますが、更にそれから一歩進めて先生はたとえば『……して頂戴』というよりも『……しましょう』というような子ども自らひきださせるような表現を用いた方がよいと思えます。

○ 私などは小さい時からのくせで『お』をつけないとどうもしゃべりにくいような感じがあります。お母様方も日常の『お』をつける生活から治していかなければならないのではないのでしょうか。

司会 松村先生、この問題について何か御意見をうかがわせていただきたいと存じます。
松村明 私は、実は小さい子どものことは、あまりよくわからないのですけれど、この『お』のことは昨今よくとりあげられている問

題ですね。これは、子どもに親しみをもってつける程度ならかまわないでしょうが、しかし過剰になっては困ると思います。先生が生活態度全般に親しみをもっているならば、『お』がつかなくても子どもとうちとけて話合うことができると思います。やたらに使いすぎる必要はないでしょうね。

秩父 『お』の問題ではこの間から先生達と話し合つて気をつけるようにしましたので、変なところにまでつけないようになりました。例えば『おかたづけをしましょう』ではなく『かたづけましょう』というように気をつけておきます。ともすると先生が『お』をつけて話しがちになりますけれど、『お』をつけないでも子どもに親しみをもって話すことは出来ますね。

東京太田 体験談として申し上げたいと思えます。一昨年卒業生を送る前に、小学校の先生と懇談会をしたことがあります。その時小学校の先生に、幼稚園の先生達は『お』をやたらとつけて話すけれど、国語を知らないのじゃありませんか、といわれました。そうやたらとつけていたわけではありませんが、きつと無意識のうちに使っていたんですね。それから幼稚園の先生達と心して話すようになりましたので、むやみとつけないようになりまして。今ではもう『お』のことはとりたてて

問題にする程でなくなっております。
山形 言語活動を主にして、それだけ切りはなすことはできませんけれど、日頃先生方が特に正しく指導していると思われることや、誘導の仕方などをうかがいたいと思います。

言語の積極的指導について

司会 言語活動を活潑にするための機会や指導の仕方について、いかがでしょうか。

田園調布 朝礼をしてその時一週間の目標をきめておきますが、先週は『言葉をきれいにしましょう』と決めました。お子さん達もきかない乱暴な言葉をお互に注意しあっており、一週間でとてもきれいになりました。一人一人だともあまりきたない言葉は使わなくても、群衆になると使いやすくなるようですが、みなの前であらかじめ目標としてきめておくと、とても一生けんめいよい言葉づかいをしようとするのですね。

司会 乱暴な言葉にも随分問題があるようですね。

大場 創作童話ということをやっております。例えば亀の子を買って来て、亀の子について何か話をさせる問題をこちらで投げ、それに子どもをのせていき、子どもの間で童話を作らせてみます。普段無口で困っているような子どもでも、実物を目の前にしての喜びから、とてもよく話してくれたりします。子

どもの創作した童話の中には、喜びもあれば、驚きもある、そして話もある。また観察もあります。これは言語活動の面でもよく参考になるのではないかと思います。

東京中野 スピーカーの設備を使って、朝の一定の時間に一組ずつまわって歩き、交たい話をさせておられます。自分達の声がよくその組まで流れるので一生けんめいにし、発表力もついたらようです。

秩父 紙芝居製作をやっております。はじめはやさしい紙芝居を見せたあとで、その中で自分の好きな場面をかかせ、次には童話を話してその話の中で印象に残った場面を絵にかき、それを皆でえらんで一貫したのとして紙芝居にして、お子さんがお話をするような行き方をしております。

例えば七匹の子山羊の話をした時などは、殆んどのお子さんが時計の中に一番小さい子山羊がかくれているところをかいたりしておりましたが……。

石黒 いつでも一応既製の紙芝居とか童話などをお子さんの前でなさってから、紙芝居製作にとりかかるような方針でいらっしゃるのでしょうか。

秩父 ええ、そのようにしております。
石黒 でしたらこの次なさいます時には、お子さん達の生活経験を基礎にしたもの、例え

ば遠足とか運動会のようなものを材料にして話合って、紙芝居製作をなさってみたらいかでしよう。きつと今までの次の段階として、あらかじめすじのあるものとはちがった本当にお子さん達の中から生れた新しい紙芝居がでさるのではないかと思いますけれど……。

東京中野 私共の園では中流以上の家庭のお子さんが殆んどですので、入園当初からお母様方の文字への関心が強く、また兄弟の間で早くからおぼえたりしています。三分の一位のお子さん達は大意知っていますし、また興味をもっている者も多く、せつかく芽ばえているものを阻止するのどうかしらと思

秩父 では今度はそういうようなものを扱ってみようと思います。
横浜 自由あそびの時になるべく多くお子さんと遊ぶようにし、機会を持つようにしています。『何でしよう』という疑問を出していくと、始めは話せなかつたお子さんも数回すると、よく知っていることにぶつかった時などは話しますし、勇気を得ていくことが段々に出来るようです。能力よりも勇気の方が大事だと言えるかも知れませんね。

文字の指導について

横浜 最近幼稚園では言語指導を大きく考えていますが、あるところではワークブックを使って文字指導をしていると聞いたりしています。また何も使わなくても文字を指導していらっしゃる幼稚園はあると思えますが、文字の指導はどうしたらよいのでしょうか。

司会 文字の指導を積極的にしていらっしゃる幼稚園はありませんでしょうか。
—— 挙手した人なし ——

東京中野 一度いたしました……。
埼玉深谷 小学校の方と連絡をおとりになったのですか。
東京中野 四月に小学校の低学年の先生と話し合いましたが、小学校では幼稚園側に自分の名前が書ける程度に指導してほしいと言っておられました。クレオンに書いてある字をみて覚えていた子どももいますね。卒業の時には、だいたい皆が名前を書ける程度になっております。

東京太田 字を教えることは幼稚園の教育の目標に沿わないと思つていたしております。近所の幼稚園で本を使って教えているところがあって、そちらの方が程度が高いといわれたことあるため、昨年一度実験的に文字

を教えてみたことがあります。でもそれを行なっている時間が、どんなに幼児の生活の他に必要な面をゆがめているかということを感じたために以後いたしておりません。

東京中野 私のところでも強制はいたしておりません。ただ、十年前の子どもと今の子どもとは文字に対する要求が違って来ているのではないのでしょうか。ある程度時代の交遷などと相まって、文字を教えていくようにしてよいと思えます。

私共のところではそれを遊びの中で扱っておりますが、二学期末から三学期にかけては、字があるといういろいろと読んで嬉しくしております。

司会 こちらの幼稚園でも割合と家庭環境がそろっておりますため、特殊かと思っておりますけれど、一応文字指導について説明していただきます。

石黒 こちらの幼稚園の文字指導の方針は『幼児の教育内容とその指導』の百十頁に述べてありますからそれを申し上げます。

『知能がじゅうぶん発達している子どもは、文字や数のことは幼稚園時代には習得しなくても、小学校にはいつてから教えられて、すぐ覚えることが可能であるので、保育の中では特別に取り扱わなくてもよい。ただ、文字や数に興味をもったり、間違つて覚えこんだ

りした子どもには正しく教えることが必要である。

幼稚園生活の間に身につけていきたいのは、自分の姓名をひらがなで書かれたものが読めるようになることである。これだけは集団生活においてはたいせつなことであり、得ていきたいと思う。そして次第に自分の名前が書けるようになればよい。(しかし、別に強要すべきではない)』

以上のような教育方針をとっております。なお一言申させていただきたいと思えますが、子どもは文字を文字としておぼえるのではなくて、絵の中の一つとしておぼえていくのだと思えます。幼稚園ではおとなの観念で字を字として指導することは、しなくてもよいように思っております。

三重 うたを教える時に、字を書いておぼえた方がよいという意見を聞いたことがあります。……

司会 私は現在五才児を受け持っておりますが、家庭で教えこまないで下さいといいたい程みな字をよく知っております。六月に絵をかくてそれに名前のかける人はいかいてごらん下さいと申しましたら、全員がかけてました。江東区富士幼 私達のところは下町ですが、今までは小学校と連絡をとって文字の指導をするという事はしておりませんでした。

最近父兄の中で文字を教えてほしいという考えをもっている人が増えて来たようです。それで父兄に一応幼稚園の教育方針を話した上で、文字指導についてもいろいろと考えております。

大場 私のところは教育大学の実験幼稚園となっております。園の行き方としては、幼稚園教育というものは、遊びと感受性を豊かにすることが主な目的だとしております。その考えを入園の際には父兄によく話し、またカリキュラムを毎月家庭に配っております。そのかわり、子どもには毎日『今日は幼稚園で何を習って来たの?』と聞くことはして欲しくない、父兄会の度に話しております。幼稚園ではとかく、遊戯・絵・歌などの表面的なことばかりを重要視する傾向が見えますが、もつと遊びと感受性を豊かにすることを強調していきたいと思っております。

司会 では最後に、ここにお集りの先生方にも松村康平 さき程の問題ですが、同僚に話して、わからせる必要がありますね。親しみは別の形で出す事が出来ます。父兄の御意見も聞いてみる必要がありますね。今の段階では、そのままいけば、小学校との間にギャップが出来ると思えます。

(31頁に続く)

倉橋惣三先生を偲びて

万感寸描

上沢謙二

倉橋先生のことを思うと、万感胸にふさがる。そのうちの幾つかを寸描したい。

◇「幼稚園雑草」は、保育に對して、私の目を開かせてくれた。否、それ以上に、保育に對する私の覚悟をきめさせてくれた。幼児教育に對する興味と、或る構想は、ずっと前からもっていたが、いよいよその世界にはいりこもうという決心は幼稚園雑草によつて具体化された。

◇先生の文章を読むと、どんな短かいものからも、きつと何か教えられるところ、得るところがある。「咳唾珠玉をなす」という言葉があるが、先生の文章は正にそれにあたると思う。

◇文章といえは、先生の書かれたものは、感想、隨筆はいろいろ及ばず、論文でも、学説でも、一種の趣があり、うるおいがあり、美しさがある。時には詩を讀んでいるような気持ちになる。想うに、先生は天成の詩人であつたらう。先生自身「保育者は詩を解さねばならない」といふような意味のことをよくいわれた。先生の著書は勿論、先生の文章がはいっている単行本は、

私はたいがい求めた。目次に「倉橋惣三」という名があるものは、けつして見逃がさなかつた。相当集まつたが、惜しいことに、戦災で大部分焼いてしまつた。

◇「幼児の教育」誌に執筆される先生の文章を讀んで、興感高まるままに、屢々愚感や質問を書き送つた。時には見当ちがいな、又は失礼な言葉もあつたと思ふが、先生は必ずねんごろな御返事を下さつた。

◇戦災で疎開したのが縁となり、郷土栃木県鹿沼市で、私は幼稚園を開くことになつたが、そのことを先生に申上げると「開園の時はいつてやろう」とおっしゃつて下さつた。それが予定よりずつとおくれて、昭和二十八年四月となつた。先生はその前に足を痛められて、地方

へはお出かけにならなかつたが、特別に奥様とこいっしょにおいで下さつた。それにフレール館の小高社長が往復と御滞在三日間を附添つて、自動車を提供してくれた。その後関西へお出かけになつたのが、地方御出張の最後だつたと思う。とすれば、鹿沼行は最後から二番目だ。有難く記念すべきことと思ふ。

◇その時の御演題は「お祝い鹿沼市の樂園」というのだった。その中で、先生はこういわれた「私は上沢さん一家を保育一家といいたい。上沢さんも私と多年関係があり、奥さんも私の講義を聴き、お嬢さんは私の教え子だ」と。私はこのお言葉を忘れない。忘れないどころか、探で以て一生の箴としたい。(童話家・鹿沼市鹿沼幼稚園長)

桜井ウメ

長年、倉橋先生の御邸宅の隣に住んで居り、幼稚園も開園以來顧問として一方ならぬ御後援を賜りました私は御礼の意味で先生の思い出を申し上げ度い強い念にかられ筆をとりました。開園は卅二年も前の事で「家庭の延長」の様な住宅に遊戯室をつけた丈、園児も九人からでしたが先生はこんな名も無い小さな幼稚園をも少しもおろそかなさらず、十周年の大増築には母の会員を後援して日比谷公会堂で映画会を催して下さったり、廿五周年土地買取にも先に立って御力添え下さいまして現

在の様に引上げて下さいました。近年はよく幼稚園にも見えて「子供は可愛いものですね」と仰言て無心に遊ぶ子供をにこにこ見て下さいました。昨秋地元立派な子供神輿が出来ました時は大変喜ばれて、先生は子供の喜ぶお祭りの気分がお好きでした。それで御輿を中心に喜んで写真にも入って下さいました。今でも暖かい日には鳥打帽をかぶって和服にくつばきの優しい先生が裏木戸から出ていらつしやる様な気がしてなりません。先生の偉大な数々の御功績については他の方々が述べられると存じますので、もつともつと山々の事がございますが以上にしておきます。

(東京都中野区桜花幼稚園長)

故倉橋惣三先生を 偲びて

松下^よ哲子

故倉橋惣三先生が幼稚園保育にお残し下さった沢山の書物は、ほんとうに貴いものがございます。ラジオで先生の御逝去の知らせを伺いました時、私は先生の御本を読んで居りました。私の机の上にはいつも先生の御本がございます。毎日の保育は申すに及ばず、新入園児を迎える時、卒業生を送る時、母の会を開く時、四季折々の保育にも先生の御本は何度となくりかえて読ませていただいたかわかりません。私共は常日頃幼児教育の場にあり乍ら、ありのままの気持をそのまま言葉の上に表現する事の出来ない私共はほんとうに先生の御本こそ杖

柱でございます。又長い長い先生の幼児教育の御研究は我が国の幼児教育の礎である事を信ずる者でございます。最近は幼児の教育について広く社会の認識のもとによりよき理解をされて日に日に幼稚園教育は進歩発展されつつあります。此の重大な時先生を失いました事はほんとうに悲しみの至りでございます。けれども私共は貴い御研究の賜物である倉橋惣三先生の残された幾多の書物を中心として、よりよき幼児教育に精進致し、日本のフレイベル先生の御遺志として永久に不滅である事を信じて止まないのでございます。倉橋惣三先生とこしへに日本の幼児教育をお守り下さい。安らげく永遠に御冥福を御祈り申し上げます。

(浜松市青葉幼稚園長)

幼児に於ける遊戯の問題

——フリーベルの所説を中心として——

吉岡千秋

(一)

少くとも教育の問題に思いを潜める人は誰でも「遊戯」の問題について考える事なくして人間の教育を語る事は出来得ないであらう。

遊戯——娯楽 (recreation) は、人間にとつては、必然的なものであり、同時に又それは絶対的なものである。人は食物なくしては生き得られないと同様に、遊戯 (娯楽、休養) なくしては生存出来な

う。
まして、幼児における遊戯の問題を考えて見る場合に、特にそれは幼児教育の立場から考えて見る時に、教育者は絶対に看過す事の出来ない問題である。

即ち、成人に於ける、遊戯乃至は娯楽の持つ意味が、明日の活動に對しての、若しくは明日の生活に對して活力源のな或いは創造的な意味をもつてその重要性を我々に考えさせるのに對して、幼児に於ける遊戯はむしろ人間形成的に至大な意味を有するのである。

即ち、それは幼児の教育に、パーソナリテイの形成に至大の關係を持つ。

我々は幼児の教育を考える時に、絶対に遊戯の問題を度外視する事は許されないのである。幼児の生活は即ち遊戯であり、遊戯は即ち生活であつて「生活が教育である」というデュロイの立場を借りる迄もなく、教育——生活——遊戯は三角形的、乃至円環的關係に於て把握し理解されなければならず、若し我々がそれを分断して認識せんと欲したならば、生命のないなきがらとしてしか把えるほかはないであらう。

さればこそ、人間教育に思いを凝らした人達は何時の時代でも幼児の教育を考え、そしてそれは幼児の遊戯の問題に到着し、幼児に於ける遊戯の有する教育的価値を高く評価したのである。

幼児教育の高唱者、そして又幼稚園の創設者であるフリードリッヒ・フリーベル (Friedrich Froebel 1782~1852) も又、幼児期に於ける遊戯のもつ教育的意義を高く評価した一人であるということが出来る。

以下簡単に、フリードリッヒ・フリーベルの所説を中心として、遊戯の問題を考えて見たいと思ふ。

(I)

フリーベルに於ける遊戯の問題は、フリーベル教育学の「中心原理である所の、自発活動の原理、若しくは創造性の原理に接続する。

大人の立場から考えて見て必要度の高い「もの」(教材)——即ちそれは子供達の現在の生活には直接の意味も功用も考えられず、明日の生活に必要であると考えられるものであるが——を人間の初期の時代(即ち幼児)から教え込むという、所謂鞭と教科書による「教え込み」(indoctrination)の中世の時代から、児童を児童として見て、大人の生活から児童を解放し、新しい児童観を打ち立てたのは、周知のとおりジャン・ジャック・ルソーであったが、我がフリーベルも勿論ルソーの崇拜者であり、ルソーの児童観の完全なる共鳴者であった。(実際、フリーベルの伝記を詳細に調べた人なら誰でも了解出来る事であるが、彼が一八〇六年、ホルツハウゼン家——Freiherr von Holzhausen——の家庭教師として就任した時に、その三人の子供の教育の為に原野に別荘を設けて、ルソーがその空想的教育児エミールを教育した如き、教育法をとらんとしたのである。然しその事は彼の意図の通りに事は運ばなかったのであるが、事の成否は別として、とに角その辺りに彼の意図を我々が容易にうかがう事が出来るであらう。)

教育は、目の見えない者に対して視力を外部から注入するが如きものでは決してなくて必性の開發であり、ベスタロッターの所謂「自助へのほう助」にはかならないとフリーベルも確信していたの

である。内なるものを引き出すという教育(education)の言葉の意味そのままを理解していたのが、彼即ちフリーベルであった。

即ち、彼によれば教育活動の本質は「内的理性即ち神を純粹に完全に実現する様に励まし」取扱い、且つかかる境地に進む道と手段とを指し示す事であった。即ちフリーベルは「内的理性」——神——を「実現する様」に勧ます所に教育の本質を直視し、大人の必要と考える「もの」をフェネロンの所謂「柔かき頭の中に」注入する事では決してなかったのである。

(フリーベルの教育思想について我々が若し考察せんとするならばここで当然「人——神の問題」に立ち入らなければならないのであるが、その問題は又別の機会に考察する事にして、ここでは深入りしない事しておく。)

子供は成長して後に人間になるのではなくして、フリーベルは子供の中に大人を見ていたのである。その意味に於て子供を大人の縮図と考えた中世に於ける児童を見る眼鏡を逆に使用して子供達をのぞいたという事が出来るであらう。

一切の人間の萌芽を幼児の中に於て見出し、それが絶えず成長し、發展して行くものであると見る所に、フリーベル教育学の核心があるとと言える。

(E)

さて、私は前節に於てフリーベルが如何に人間の教育を考えていたかという事の一例を考えて見たのである。彼が自発活動を教育の

中心原理として把握していたという事は、従つて幼児の活動を、そして同時に必然的に遊戯の教育的意義を高く評価した事の理解に対しての基礎的な条件であるからに外ならないからである。

幼児は常に活動するものである。動的な存在である。その事は、今あらためて説明する迄もないであろう。幼児が動的な存在であり常に活動するというその「活動」とは即ち幼児にとり、生活でありそしてそれは又同時に遊戯にほかならないのである。

然らばその「活動」とは一体何であろうか。即ちそれはフレイベルによれば「自己のうちに持っているもの、自己のうちに欲しているものを外にも表わしたのである。また自己のうちに秘められたるもの、自己のうちに生き生きとしているものが、自己の外にもありたいと願う」のである。即ち子供の胸の中にあるものの外的表現が活動であり、作業であり、その活動の根源は、フレイベルのいう生命でなければならぬのである。

そして、幼児の生活とは具体的には、遊戯であり、従つて遊戯はフレイベルによれば「子供が自己の内界を自ら自由に表現したものの」であり、「自己の内的本質の必要と要求とに応じて内界を外界に表現した」ものなのである。従つて遊戯は「この期の児童の最も純粹な精神的所産であり、また人間生活全体の模範ともいふべきものである」訳である。

即ち幼児の遊戯は「最も純粹な精神的所産」である。幼児の純粹な精神的所産であるが故に我々は、幼児の「あそび」とおして、幼児の精神を、即ち「心」を見る事が可能である。

即ち、フレイベルによると、幼児の遊戯は幼児の「心の鏡」である訳である。従つて我々は幼児の遊戯をおして、幼児の心を見る事が可能である訳であり、この事は又幼児の遊戯をおして、幼児の精神の啓培が可能であるという事が出来る訳である。従つてフレイベルは幼児の遊戯のもつ教育的意義を極めて高く評価し彼は遊戯をもって「すべての善なるものが出て来る源泉」であるとしたのである。即ちあらゆる善きものはすべて、その根源をこの遊戯に持つと考えたのである。フレイベルは「自体の疲れるまで倦まずに落ちて遊ぶ児童は、成長の後必ずや犠牲的に他人の安寧や幸福を計り、ひいては我が身の幸福をも増進する様な落ち着いた根気強い有為の人間になるであろう。」と遊戯のもつ功德をほめたたえたのである。フレイベルのこの考えをそのままに我々が受容出来るかどうかは別としてフレイベルによれば「よく遊ばない子供」は立派な人間になる事は出来ないと考え、少くとも「よい子」ではないと考えたのである。フレイベルのこの考え方がそのままに妥当するかどうかは別としても「よく遊ぶ子」はよい子と言つた標語風のこの言葉に我々も又反対する事が出来難いのはあるまいか。

「小人閑居而為不善」とは、フレイベルのこの表現をそのままに成人の間に移行しての、成人に於ける場合の遊戯の教育的な乃至は倫理的な東洋に於ける表現であると言ふ事が出来るであろう。

さればこそフレイベルには「児童が熱心に遊びに没頭し、十分遊んで疲れてよく眠り入る様は、この期における児童生活の最も美しい現象」として看取出来た訳である。

(浪花短期大学)

私の園の入園状況

中谷久子

幼児教育の重要性が、一般社会に認識されるようになって、幼稚園への入園希望者が年々増加するに伴って公私立の幼稚園が次々と新設され、又拡張されて、その収容人員も多くなった。

而し乍ら昭和二十七年、二十八年は幼児数の急激な増加により、幼稚園は最も

狭き門となり、はじめて集団生活に入る純真な幼な児の魂に、落伍者として暗い影を与え、その父兄に不安と焦燥と失望を、感じさせる。入園選考が、行われることになった。入園許可発表の際は、夫々の事情を泣いて訴える、父兄の面接に園長は、身も病る苦しい立場におかれるのであった。そ

の後次第に幼稚園は広き門へと移行しつつあるが、園に依って必ずしもそうとは言われない。
私の幼稚園のここ数年の入園状況を示して見ると次のようである。

| 年次 | 園児数 | | 組数 | | 新入園児数 | | 志願者数 | 倍率 | 種類 | 入園児選考方法 | 備考 |
|------------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------|-------------|--------------------------------|---------------------------|-----|
| | 一年児 | 二年児 | 一年児 | 二年児 | 一年児 | 二年児 | | | | | |
| 昭和 一五年度 | 130 | 23 | 3 | 1 | 130 | 150 | 1.2 | 身体検査 テスト | 志願者全員身体検査をして 後簡単なテスト | 願書受付は、満員次第 締切る | |
| 二六年度 | 156 | 56 | 4 | 2 | 179 | 297 | 1.7 | 同右 | | 同右 | |
| 二七年度 | 199 | 62 | 5 | 2 | 205 | 311 | 1.5 | 同右 | | 同右 | |
| 二八年度 | 323 | 66 | 8 | 2 | 327 | 478 | 1.5 | 抽せん 身体検査 | 市教委立会の上抽せんで第一 次決定身体検査に依って決定 | 市教委の公示に依って願 書を一定期間受付ける | |
| 二九年度 | 400 | | 10 | | 334 | 453 | 1.4 | 同右 | 同右 | 一年保育児のみ | |
| 三〇年度 | 436 | | 11 | | 436 | 495 | 1.1 | 同右 | 同右 | 同右 | とする |

右の表に示す組数の増加は、毎年入園志望者の切望により、当局に陳情しての結果であつて、もとより保育室の余裕はなく、職員室を保育室に、又物置を改造拡張して保育室に充當、つづいて保育室の増築と、育友会の絶大な援助を得て、多数幼児の収容に努めて来たのである。

遂年の入園希望者増加に、従来行つて来た願書受付開始後、満員になれば随時締切り身体検査と簡単なテストで、入園決定をしていた方法は、種々の問題をかもし出す点をかんがみ、二十八年程度からは、市教委の公示に依つて、広く一般に知らし、一年保育児のみ募集を原則として、一定期間内は願書を受け、市教委立会のもとに、厳正な抽せんに依つて第一次を決定、当選者のみに身体検査を行つて、身心共に集団生活に支障なしと、認めた者に入園許可の通知を送ることになった。

園の事情や、保育の実際から、特に要望して最少限の二年保育児収容を許されていたが、二十九年度は全然二年保育児の願書

を受けず、一年保育児のみで四五三名の志願者となり、高一・四の倍率を示し、神戸市立幼稚園で唯一つ抽せんを行ったのである。

三十年度は残る園児はなく定員の全部四〇〇名を募集したが四九五名の志願者で、又々抽せんに依つて選考、特に一組増加四三六名の入園許可となつた。

以上によつて大体神戸市立幼稚園の入園状況のアウトラインが、うかがわれると思ふが、昨年度からは私の園を除いて一年保育児は全員、身体検査のみで入園出来るようになり、狭き門をかこつていた幼稚園も次第に落ちつきを見せ、二年保育児も十分収容されて、幼稚園のあるべき姿にかへり望まじき保育へと明るい見通しのついて来たことをまことにうれしく思う。

私の園も来年度は抽せんなしに全員収容出来るだらうと肩の軽さを覚えている。

(神戸市立楠幼稚園)

新 刊 案 内

文 学 博 士 武 政 太 郎 先生 監 修
玉成高等保育学校長 有 院 扁 良 先生 校 閲

玉成高等保育学校幼児教育研究会編

A5判 330頁
定 価 450円

フレーベルの恩物の理論とその実際

箱入上製本
下 32円

フレーベル先生が創造された恩物について、著者の多年の研究の結果が、平明に説かれている。恩物の研究者、ならびに幼児教育者必読の書!

株式会社 フレーベル館

幼児の教育 第五十四卷 総目録

第一号

| | |
|-----------------------|----------|
| 新しき年を迎えるにあたって | 倉橋 惣三 |
| 児童文化のために | 牛島 義友 |
| 園児の夢を追って | 高間 富子 |
| 確かに希望がある | 武南 高志 |
| 実際保育に当って一年 | 上山 照子 |
| | 定方 とく |
| よい教育でよい研究を | 三木 安正 |
| 冬の衣服に就いて | 松川 哲哉 |
| 沖繩の旗 | 松村 康平 |
| 米国における幼児教育協会全国大会に参加して | 黒田 成子 |
| 幼稚園教育要領案とその問題 | (1) 宮内 孝 |
| 幼児の冬期に於ける健康について | 竹村 一 |
| フレール以後の幼稚園(1) | 津守 真 |
| 第二号 | |
| 幼児の心理と幼児教育 | 波多野完治 |
| 園児の変化をみて | 山村 きよ |
| 環境設定について | 徳久 孝 |

| | |
|-------------------------------|-------|
| (新設幼稚園七ヶ月を顧みて | 豊田 イト |
| 製作の資材の調査をしてみ | 善方千代子 |
| 繭を使って | 森本 卓子 |
| 鋳物木型を使って | 新井 久子 |
| ドイツ便り | 相場 均 |
| 幼稚園に於ける問題児とその指導(1) | 海 卓子 |
| | 堀合 文子 |
| 高崎山の野猿 | 加藤 常吉 |
| 排泄と精神衛生 | |
| 教育職員免許法施行規則における幼稚園関係の改正主要点の解説 | 王越 三朗 |
| フレール以後の幼稚園(2) | 津守 真 |
| 第三号 | |
| 幼児と音楽 | 山下 俊郎 |
| 組編成のいろいろから浮び上る問題 | |
| 井上 季子・村田 修子・安藤哲次郎 | |
| 宮地 忠雄・竹中 京子・佐々木淑子 | |
| 蒐集について | 太田 次郎 |
| 幼稚園教育研究集会を実施して玉越 | 三朗 |
| 問題児の成長 | 土屋真砂子 |
| 冬の遊び | 山口 たつ |

| | |
|----------------------------------|-------|
| 都心地域の保育 | 小林 操 |
| 津守 真 | |
| 全国幼稚園保育所教員養成課程募集校一覧 | |
| 第四号 | |
| 保育室のふんいき | 及川 ふみ |
| 保育研究の方法について | 西本 脩 |
| 幼稚園における問題児とその指導(2) | 海 卓子 |
| 新入幼児を迎えるための環境設定と心の準備 | 北村 次子 |
| この頃の私の幼稚園 | 佐藤 実 |
| 兼任園長覚書 | 菊田 要 |
| 子供の間で作られる歌について久留島武彦 | |
| 学校から家に帰るまで | |
| アメリカ大使館文化交流局提供(書評)高橋さやか著家庭と保育の歴史 | 高崎 毅 |
| 幼稚園教育要領案とその問題(2) | 宮内 孝 |
| 雑記帳 | 村井 トミ |
| 保育における童話 | 上沢 謙二 |
| フレール以後の幼稚園(3) | 津守 真 |
| 第五号 | |
| 近頃感じたことの二つ三つ | 齋藤 文雄 |
| 私の園の研究 | |
| 松井田鶴子・植田 有子・中谷 久子 | |
| 杉藤 静子・秋田 好枝・佐藤 盛雄 | |

遊びの場面が十分に活用されている
でしょうか

水原 泰介
副島 ハマ
小川 正通

イギリスの幼児教育(上)
保育研究の方法について
幼稚園教育要領案とその問題
フレibel以後の幼稚園(4)

角尾 稔
宮内 孝
津守 真

第六号
倉橋先生を悼む
日本幼稚園協会・日本保育学会
心理学の友・みどり会
日本児童学会・フレibel館

故倉橋惣三先生略歴
故倉橋惣三先生御葬儀の記
望月先生を偲びて
先づより多くの幼児を
新入園児と集団教育
最近の入園状況

山崎とき
多田 鉄雄
久米 光

戸村 キエ・玉川喜代子・長谷川増吉
中島 研六・関 博・長沼 依山
笠原 秀定・杉田 葉藏・高木 三吉
本田 玄洲・田中 阿以・堀田 茂兎
遠藤 艶子・荒木 志保・岩間 松栄
森 純吾

カリスト教幼稚園界の展望
仏教幼稚園界の展望
保育所の真の姿

武南 高志
青柳義智代
副島 ハマ

ドナ・ノビス・パツツエンの歌
徳島名物今昔論
フレibel以後の幼稚園(5)

桜井たか子
板東 和子
津守 真

第七号
倉橋惣三先生追悼号
青柳義智代・浅野寿美子・石川 謙
岩崎 香・牛島 義友・及川 ふみ
大滝 晴・大塚 喜一・菊池ふじの
岸辺 副雄・久留島武彦・坂元彦太郎
下村 寿一・齋藤 文雄・武田 雪夫
多田 鉄雄・竹村 一・内匠 ちる
玉川喜代子・田坂 ユキ・津守 真
野口 明・林 成子・平井 信義
藤本 万治・堀 七藏・村田 修子
山口 菊代・山崎とき・山下 俊郎
山村 きよ・和田 信藏

第八号
倉橋先生と人形
倉橋先生の御死去を惜しむ
最低基準の研究から
幼稚園教育に望む
ある乳児達
劇あそび 海に落たまわら帽子
イギリスの幼児教育(中)
夏期保育計画
地域社会における幼児の特性と保育

山田徳兵衛
高崎 能樹
牛島 義友
鈴木 和夫
秋山ちえ子
村井 トミ
小川 正通
木村 時枝
友田 静恵

保育者のなやみ
米国における学校教育
へ幼児の劇あそび集

舟木 哲朗
北川 台輔
及川 ふみ

第九号 (第八回日本保育学会特集)
入学期前後の幼児健康状態について
岩原喜美子
吉田 弘美
二、三才児の社会的行動の研究 植松 治子
マザリングの実験
珠川 善子・安藤味法子・甚目 朋
幼児に与へる保母の影響について
岩瀬 節子
珠川 善子
幼児の知能に関する調査
村山 貞雄・和田 礼子・伊勢山はつ
音楽素質診断テストについての一考察
森崎 君枝
音楽素質診断テストについて
守屋 光雄・釘宮 冨子・高橋 洋子
幼児用絵画統覚検査(RCAT)作成
の試みについて
山本 真市・西本 脩・吉井 忠正
幼児用絵画統覚検査(RCAT)の
適用事例について(同右)
遊戯療法とCATによる診断と指導
加藤 清子
幼児・児童絵画統覚検査について
浜田 駒子
小西勝一郎

Finger-Painting に ついて
小西勝一郎

幼児における Group Therapy

権平 俊子・森脇 要・並河 信子

一施設幼児の社会性の研究

児玉 省・石井 雅子・高橋 景子

幼児の遊びの観察

旭 妙子

家庭における保育知識をめぐる問題

田中 一成

幼児の偏食に関する総合的研究

玉井 収介・副田 澄子・鈴木 典子

一年保育児と二年保育年長児との身体的差異について

宮内 孝

保育環境が歯(乳歯)の石灰化に及ぼす影響について

深田 英朗

新入園児のスキップ調査

小木曾光子

幼児の質問と保育課程の構成 野間 郁夫

精神薄弱児の言語に関する考察

棚橋 節子・甲斐久生・加賀美あぐり

広松田鶴子

保育園児の社会的成熟度について

甲斐 久生 宇井 淑子

幼児の自由画と生活と感情

高橋さやか

幼児画の指導について

友田 静恵

幼児の絵画指導に関する基本的研究

日名子太郎

幼児の遊びに対する親の態度 竹田 俊雄

保育学における現在の関心の問題

三井 為友

デューイの幼児教育思想とその現代的意義

小川 正通

第十号

ソ連の就学前の教育をみて

長田 新

幼稚園における幼児の話しことばの指導

高間 富子

自然観察の系統的指導

友田 静恵

《劇あそび》 おやすみなさい

佐々木淑子

(書評) 莊司雅子著「幼児教育学」

山下 俊郎

第八回日本保育学会特集

本邦幼児発達規準の研究(共同研究報告)

山下 俊郎・竹田 俊雄・村山 貞雄

松村 康平・児玉 省

性格教育の問題(シンポジウム)

高橋 貞・岡 宏子・堀 要

松村 康平

第十一号

ベスタロッチの政治思想

蠟山 政道

最近の学習心理学

波多野完治

転換期に直面する新教育

吉田 昇

《劇あそび》 雨

石黒 京子・佐々木淑子・関 治子

《音楽リズム》 かかし

堀合 文子・村田 修子・村井 トミ

「幼児の教育内容とその指導」について

津守 真

幼児と自然

佐々木淑子 津守 真

絵画製作(研究協議)

及川 ふみ・堀合 文子・村井 トミ

林 健造

健康運動・音楽リズム(研究協議)

村田 修子・平井 信義・戸倉 ハル

第十二号

幼児用の机と椅子について

山下 俊郎 水原 泰介

第二回全国国立幼稚園教育大会に出席して

菊池ふじの

第二回全国私立幼稚園大会教育研究会に出席して

池田 節夫 村井 トミ

幼児の交友関係の考察

関 治子

幼児の発表力について

国際学校の子供の絵アメリカ大使館文化交流局提供

社会(研究協議)

菊池ふじの・松村 康平・津守 真

自然(研究協議) 佐々木淑子・堀 七蔵

言語(研究協議) 関 治子・石黒 京子

松村 明・松村 康平

幼児に於ける遊戯の問題 吉岡 千秋

倉橋惣三先生を偲びて

上沢 謙二・桜井 ウメ・松下 哲子

私の園の入園状況 中谷 久子

後記

今年の一月号の本誌は、故倉橋惣三主幹の巻頭の言に始まって、第五十四巻の半ばにして倉橋主幹の天に召されたことは、本誌の五十四年の歴史の中でも誠に大筆すべき大事件であった。倉橋主幹の言葉をもって始められた此の巻を終るにあたり、その半ばにはからずも特集することを余儀なくされた六・七月号をとりあげてみて、誠に感慨無量である。再び倉橋主幹の温情溢れる声に直接ふれることのできない物足りなさを思うのである。されど倉橋主幹は天寿を全うされたとはいえず、本誌の使命は未だ終らず、我が国の幼児教育界はいよいよ進展し、発展の歩を進めてゆくであろう。長い歴史の眼から見れば、一つの事件は生成発展しゆく社会の一つの鎖にすぎない。倉橋主幹の四十年にわたり本誌に刻まれた足跡は、人も知る如く誠に輝やかしい足跡であった。私どもはかくして結ばれた鎖に又新たな鎖をつなげてゆくことができよう。我が国の幼児教育の諸分野にわたって、更に新たな理解を加え、本道をふみはずすことなく、正しき方向に発展の道

を進めるために力を合わせる事ができる。現代の我々の社会は、広い社会の問題はもちろん、一つの専門分野においても、相互の理解と協力を必要としている。正しい方向に我が国の幼児教育を進めるために、此の分野及び隣接分野に関してよりよき理解を求め、理論にそして又実際面に更によき洞察をうるために、今後本誌はその努力をつづけるであろう。教育の問題は単に一分野の技術の問題にとどまらず、広く人間及び社会と関連するが故に、我々は一層広く大きい洞察を必要とするのである。本誌はその問題をたえず考えて来たし、又今後も考えつづけるであろう。そして我が国の社会が健全に発展するために、幼児教育を通じて努力したい。

本巻は、予期しない行事がいろいろ出て来たために、誌面の都合で、掲載すべき論説や研究で取載しきれないものが沢山ありました。そのために読者及び特に執筆の諸氏に御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。読者諸氏のよい年を迎えられますよう祈ります。

幼児の教育 第五十四巻 第十二号

定価金五十円

昭和三十年十一月二十五日印刷

昭和三十年十二月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振込口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願い致します。